

第2章

実践編

—指定中学校区における取組—

第2章では、平成29年度中1ギャップ問題未然防止事業に取り組んだ全道10地域の指定中学校区における中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を紹介します。

I 指定中学校区の「中1ギャップ解消プラン」

II 指定中学校区における実践例

岩見沢市立東光中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 岩見沢市立東光中学校 (生徒数 367 名)
 小学校名 岩見沢市立東小学校 (児童数 316 名)
 岩見沢市立岩見沢小学校 (児童数 323 名)

本プランの特徴

- 「15の春に責任をもつ」を共通目標に、児童生徒の課題の共有及び小・中学校が連携した取組の実現に向け、毎月1回の連携協議会、合同研修、合同教育講演会を行っています。
- 「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導の確立に向けて、「3校ロードマップ」「3校家庭生活の決まり」を作成し、計画的に取組を推進しています。
- 不登校未然防止のため小・中学校の円滑な接続及び入学前後の共感的な人間関係の構築、学習意欲向上を目指し、入学前の「小学校2校によるグループエンカウンター」や「秋の体験入学」、「中学校授業体験」、「出前授業」を行っています。

1 推進地域の特徴

岩見沢市の最東部に位置し、校下は開基以来の老舗を含む商店街の大部分と開拓以来の東地区及び新造成地域である。保護者の教育についての関心は非常に高く、学校行事やPTA活動、各種ボランティアへの支援が厚い。また、岩見沢市は平成17年度から中学校の「学校選択制度」を実施しており、入学する学校を市内全ての中学校から選択することができ、東光中学校においても校区の2つの小学校をはじめ、複数の学校から児童が入学している。

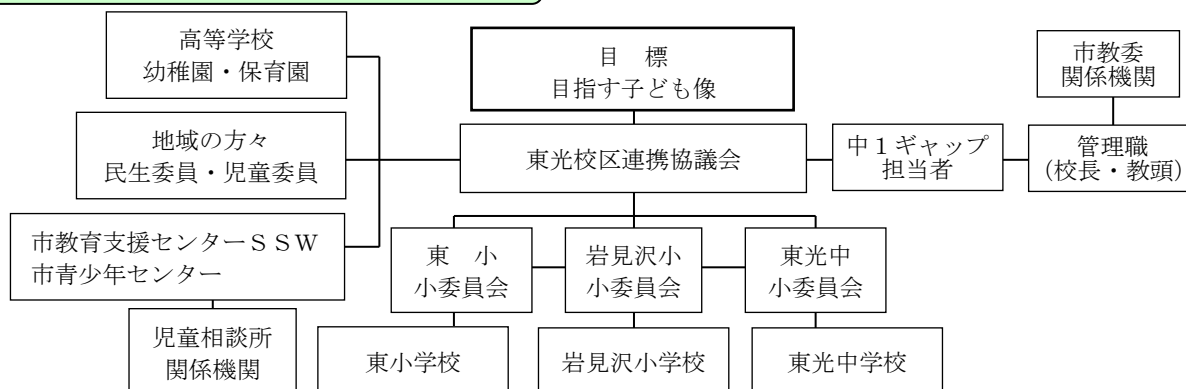
2 推進地域の課題

平成29年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、「平日のテレビ等の視聴時間」、「ゲーム・携帯・スマホの使用時間」が多く、「休日の家庭学習の時間」、「家で宿題をすること」、「家庭での読書の時間」、「地域行事への参加」が少ない傾向が3校とも見られる。なお、4年前は、「話を聞く態度が身に付いていない」、「自尊感情が低い」ことを3校共通課題として確認するとともに、校区が一体となった対応について検討することが求められた。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 児童生徒の課題を改善するため、ゴールを明確にした共通・継続して取り組める具体的な教育活動を組織的に見出し、整備しながら、義務教育9年間の系統立てた指導の確立を図る。
- 生徒指導の三機能を生かすことで、学ぶ意欲を向上させ、確かな学力と豊かな人間性を育む。
- 楽しい学校生活を送るためのアンケート「HyperQ-U」と子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を共有するとともに、不登校児童生徒や支援を必要とする児童生徒の実態を交流し、小中一貫した指導の充実や改善を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時期	岩見沢市立東光中学校	岩見沢市立東小学校 岩見沢市立岩見沢小学校
3月	【年間計画の作成】 ○ 毎月の連携協議会、年間活動予定、新年度の重点の確認	
	【新入生徒に関する引継ぎ】 ○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 個別の支援計画（進学支援シート）をもとに特別な教育的支援を必要とする児童についての情報の共有 ○ 食物アレルギーに関して特別な配慮を要する児童の確認（学校生活管理指導表の引継ぎ）	
4月	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 生徒の状況（集団・個別）について確認	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 児童の状況（集団・個別）について確認
	【各校でのプレゼンテーション】 内容：東光校区の小中連携及び中1ギャップ問題未然防止事業の取組方針の確認 ○ 連携協議会の取組、これまでの成果と課題、今後の方向性等を教職員へ向けて発信	
	【授業交流①】 ○ 各校の授業参観に出向き、児童生徒を観察し、互いに感想等を交流	
5月	○ 生徒指導研修① ・全学級より気になる生徒の資料提出	
6月	○ 「HyperQ-U」①、いじめアンケート①の実施	○ 「HyperQ-U」①、いじめアンケート①の実施
	【東光中学校 学校公開日】 ○ 中1の生徒が小6時の学級担任を招待し授業参観（校区の教職員がチームであることを生徒が認識）	
	【中学校生徒から小学校へ 卒業後の自分～近況報告～】 ○ 中1及び中2の生徒が小学校へ顔写真付きの手紙を作成し送付、それぞれの卒業した小学校に掲示してもらい、児童、教職員、保護者に見てもらう	
7月	○ 進路相談 ○ 特別支援教育研修① ・幼保との連携（卒園児を母校に帰す） ・聖十字幼稚園園庭改修工事への協力	○ 生徒指導研修① ○ 生活・学習アンケート①の実施
	【授業交流②】 ○ 各校の授業参観に出向き、感想等を交流	
	【小学校へのフィードバック～生徒指導～】 ○ 6月に実施した中学校の生徒指導交流会の資料（気になる生徒）を小学校に配付	
	【生徒理解支援ツール「ほっと」①】 ○ 小・中学校で実施	
8月	【児童・生徒交流①】【小中の引継ぎ①】 ○ 中1及び小6の児童生徒の状況について学級担任を中心に交流	
9月	【東光中学校 秋の1日体験入学、部活動体験】 ○ 小6の児童の授業参観・校舎見学・部活動体験 ○ 中学校から講話・合唱披露 ○ 小学校間の児童の交流（グループエンカウンター①実施（自己紹介を兼ねた名刺交換））	
10月	○ 教育相談事前アンケート、いじめアンケート②の実施	○ いじめアンケート②の実施

様式 1

10月	○ 教育相談週間 【小中が連携した保護者対応事案への関わり】 ○ 来年度入学予定生徒（6年生）の保護者による中学校へのクレーム事案を、小学校教諭の協力を仰ぎ対策を協議し理解を得る	
11月	○ 「HyperQ-U」②の実施及び変容・分析結果の交流 ○ 生徒指導研修② ・前期各学級気になる生徒の実態を交流	○ 「HyperQ-U」② 専門家チームによる助言、分析結果の交流 ○ 生徒指導交流会①
	【3校合同道徳公開研修会】【授業交流③】 ○ 研究授業（公開授業）参観・研究協議 ○ 講師（毛利豊和氏、山田貞二氏）による示範授業及び講演	
	【中から小への乗り入れ授業①】 ○ 小5及び小6の児童とその保護者を対象に中学校教員による「情報モラル」授業の実施	
12月		○ 生活・学習アンケート②の実施
	【3校長による来年度のビジョン提示】 ○ 来年度の小中連携及び中1ギャップ問題未然防止事業に対する方向性の提示	
	【児童・生徒交流②】【小中の引継ぎ②】 ○ 小6の児童の学習面、生活面、家庭環境で特に心配な児童の交流	
1月	【中1ギャップ加配教諭担当による講演】 ○ 民生委員、児童委員を対象にした「情報モラル」「ゲームが与える脳・身体・心への影響」の講話及び連携協議会で交流された情報の発信、協働依頼	○ 生徒指導研修②、生徒指導交流会② ○ 特別支援教育研修②
	【ロードマップの検討・協議・修正】 ○ 発達の段階に応じゴールを明確にした各ステップの目標設定 ・学習規律 ・ノートづくり ・家庭学習 ・話を聴く力（受信力） ・話し方（発信力） ・校内生活、校外生活、家庭生活	
2月	○ いじめアンケート③の実施	○ いじめアンケート③の実施
	【東光中学校新入生入学説明会】 ○ 中学校入学に向けた心構えの説明 ○ 講話、合唱披露 ○ 小中の児童交流（グループエンカウンター②の実施） ○ 授業体験（小学校からの教科の希望等を集約し、特別に編成した4学級において4教科の授業を実施）	
	【児童・生徒交流③】【小中の引き継ぎ③】 ○ 小6児童の個々の状況を学級担任中心に交流 ○ 特別支援学級の児童及び特別な教育的支援を必要とする児童についての確認	
	【小中から地域への啓発活動】 ○ 地域の青少年健全育成会議における情報モラル等の啓発	
3月	○ 生徒指導研修③	
	【年間計画の確定】 ○ 毎月の連携協議会、年間活動予定、新年度の重点の確認 ○ 授業スタイルの統一、教科部会の開催、乗り入れ授業の実施	
	【新入生徒に関する引継ぎ④】 ○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 個別の支援計画（進学支援シート）をもとに特別な教育的支援を必要とする児童についての確認	

※毎月1回定例で小中連携会議（中1ギャップ検討委員会）を開催（会場は3校持ち回り）

6 事業の成果

- 小・中学校間での家庭学習における内容や方法について連携を図ったことにより、「学校は、家庭学習の習慣が身に付くように、また長期休業中や放課後を活用しながら学力定着に向けて取り組んでいると思う。」と回答した生徒及び保護者の割合が前年度より高くなった。また、小・中学校間での学習規律・生活規律の改善を図ったことにより、「学校は、挨拶、礼儀、傾聴、規則遵守、整理整頓、清潔・安全の定着に努めていると思う。」と回答した生徒及び保護者の割合が前年度より高くなった。

設 問 項 目	対 象	H29	H28
学校は、家庭学習の習慣が身に付くように、また長期休業中や放課後を活用しながら学力定着に向けて取り組んでいると思いますか。	全校生徒	77.3%	61.4%
	保護者	61.5%	51.2%
学校は、挨拶、礼儀、傾聴、規則遵守、整理整頓、清潔・安全の定着に努めていると思いますか。	全校生徒	73.6%	71.0%
	保護者	83.0%	77.1%

【平成29年度岩見沢市立東光中学校関係者評価アンケートから抜粋（肯定的な回答の割合）】

- 平成29年度入学生徒（現中学1年生）で6年生段階では2名が不登校であったが、中学校入学後に1名が登校できるようになり、不登校生徒数は1名減となった。
- 入学前の「秋の1日体験入学（9月）」、「新入生入学説明会（2月）」において、小中のグループエンカウンター、小・中学生の交流、中学校教員との交流、授業参観などにより、6年生が入学前に新しい仲間や中学校教員とのコミュニケーションに不安をもたせないように配慮した。
- 道徳教育の抜本的改善・充実に向けた小・中学校相互の授業公開、研究協議等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の工夫・改善を行った。



「秋の1日体験入学」において、小学校間の交流（自己紹介、名刺交換、ゲーム）を行っている様子



「3校合同道徳教育公開研修会」でのパネルディスカッションの様子

7 今後の課題

- 不登校生徒は、昨年度8名（中1：0名、中2：5名、中3：3名）から、今年度8名（中1：1名、中2：3名、中3：4名）と変わりがないことから、不登校生徒への早期対応と未然防止に努めるとともに、PDCA及びGPACサイクルにより短いスパンで改善を図り、より実効性のある取組にする必要がある。
- 「15の春に責任を持つロードマップ」「3校家庭生活の決まり」は、作成することが目的ではないことから、学校や地域の実態や社会の変化に応じて適宜改訂する必要がある。
- 連携協議会で作成した中1ギャップ解消プランが、各学校の教員に十分に周知されていないことから、実現に向けた中期・短期のプランを明確にさせ、全教職員でビジョンを共有する必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

- ★ **系統的な指導の確立と目指す子ども像の共有と可視化した小・中学校の緊密な連携体制の整備**
小中連携を推進するためには、ゴールを明確にし、無理なく継続できる取組の構築が不可欠であることから、各校種の強みを生かし、「15の春に責任を持つロードマップ」「3校家庭生活の決まり」を通して、教職員と児童生徒、保護者、地域で共通理解を図り、一貫した取組を推進するとともに、平成30年4月までに「東光中学校区生活の決まりと約束」を作成する。
- ★ **計画的・組織的な児童生徒の人間関係を構築する力の育成**
入学前に実施する授業交流や乗り入れ授業、1日体験入学、入学説明会でのエンカウンター、合同研修等を3校の教育課程に位置付け、教科等との関連を図りながら計画的・組織的な教育活動を推進する。
- ★ **各種調査や支援ツールを活用した児童生徒の学校生活への適応状況の把握と適切な支援**
各種調査や児童生徒理解の支援ツールから、児童生徒一人一人の内面を客観的にとらえることにより、不登校やいじめ等の早期発見、早期対応に組織的に取り組む。

石狩市立樽川中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 石狩市立樽川中学校（生徒数 495 名）
 小学校名 石狩市立南線小学校（児童数 927 名）

本プランの特徴

- 小・中学校の円滑な接続を目標に、学習環境、学習規律、授業改善、家庭学習について連携を図り、9年間を見通した学習指導を行っています。
- 町内会と連携した「小・中合同校区内清掃」の実施や小・中合同 PTA 行事の開催等に取り組み、地域住民や保護者も一体となって9年間で子どもを育てる取組を推進しています。
- 既存の取組（石狩市全体で取り組む Q-U の実施、小中連携研究会、詳細な引継ぎ等）を強化し、児童生徒理解の充実を図っています。

1 推進地域の特徴

石狩管内唯一、海に面する石狩市は、人口約6万人、海岸線に沿って、南北に長い市域をもつ。市の南部に位置する樽川地区は、札幌市に隣接するという立地条件のよさから住宅地が次々と造成され、新しい住民の流入も目立つ。

花川南地区の生徒の急増から、石狩市の5番目の中学校として平成7年に開校したのが樽川中学校である。中学校区には、南線小学校1校のみが存在するという点において特徴的であり、生徒も保護者も地域に対する深い愛着を抱きながら生活している。

2 推進地域の課題

明るく素直な子どもが多く、落ち着いた生活を送っている。言われたことと与えられた物事に対しては、熱心に取り組む様子がうかがえる。

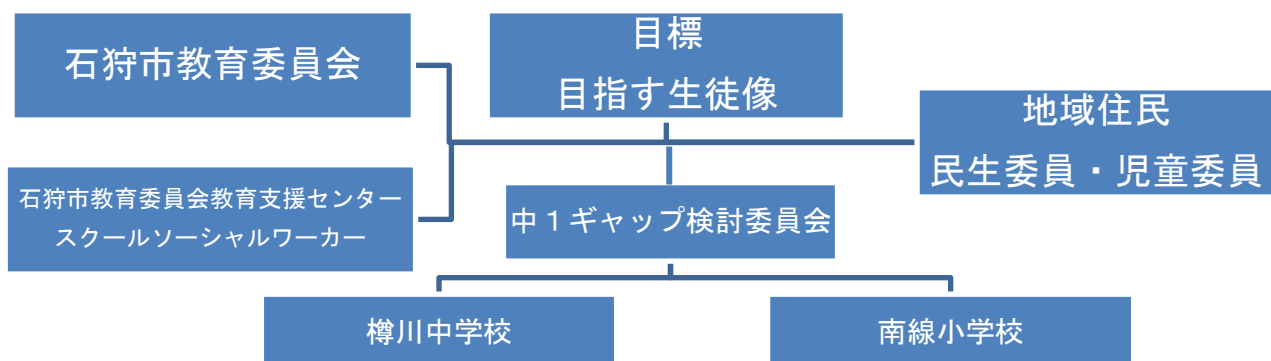
一方、小学校入学時から9年間、人間関係に大きな変化がないこともあり、自分の意思を明確に相手に伝えることを苦手としている。また、生活環境にも変化が少なく、新たな課題や、困難な状況に対応することを苦手としている子どもも多い。

こうしたことから、中学校へ進学した際に新たな環境に適応できず、不登校傾向を示す子どもが多い。また、学習内容の未定着が不登校につながっている事例も見られるため、小・中学校の連携の促進や家庭や地域などとの情報共有を図る必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 石狩市全体で取組が進められている学級集団アセスメント「Q-U」の活用、小中連携研究会による実態交流、詳細な引継ぎ等による児童生徒理解の充実を図る。
- (2) 授業改善等支援事業と連動して、出前授業の実施、小・中合冊「家庭学習の手引」の配付など、「授業改善」、「学習規律」等の取組の充実を図る。
- (3) 授業参観、各種行事の交流、地域やPTAと一体となった各種取組を推進する。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時期	樽川中学校	南線小学校
3月	【新入生に関わる丁寧な引継ぎ】 ・ 小学校作成の「個票」を基に丁寧な引継ぎ ・ 「個票」や「引継ぎ資料」を踏まえた中学校第1学年の学級編成 ・ 中学校教職員の引継ぎ資料の共有	
	【春休み帳の配付と指導】 ・ 中学校教員が作成した春休み帳の配付（新入生を含む） ・ 規則正しい生活習慣と家庭学習習慣の確立を目指した取組 ・ 小学校での配付と児童への指導	
4月	【中1ギャップ検討委員会の設置】 ・ 校内組織の確立 ・ 不登校傾向のある児童生徒、特別な支援が必要な児童生徒の情報共有 ・ 関係機関との連携	
	【家庭学習の手引きの作成、合冊、配布】 ・ 基礎学力の定着を目指した家庭学習習慣の確立 ・ 南線小学校：低・中・高学年別、樽川中学校：学年別 それぞれ「家庭学習の手引」を作成し、全児童生徒に配付	
	○ 新入生の学力を把握するテストの実施 ・ 学習内容の定着状況の把握 ○ 習熟度別少人数指導（数学科）による 個に応じた指導	○ 算数科におけるTTによる指導、少人数 指導 ・ 学習内容に応じてT1～T4まで教員を 増員しての指導
5月	【中1ギャップ問題未然防止事業 第1回運営協議会】 ・ 事業内容、目的、重点目標の確認 ・ 年間推進計画の確認	
	【生振小学校PTAを交えてのPTA3校交流会の実施】 ・ 実態交流、連携強化・推進	
	○ いじめアンケートの実施（5月、11月） ・ いじめの実態把握	○ いじめアンケートの実施（5月、11月） ・ いじめの実態把握
6月	【第1回 小中合同中1ギャップ検討委員会】 ・ 実施計画検討、他	
	○ Q-Uの実施（6月、12月） ・ 生徒個々、学級集団の心理状態の把握 ・ 分析結果の共有 ・ 集団づくり、個別対応の検討	○ Q-Uの実施（6月、12月） ・ 児童個々、学級集団の心理状態の把握 ・ 分析結果の共有 ・ 集団づくり、個別対応の検討 ○ 全校一斉国・算テストの実施 ・ 学習意欲の把握、実態把握

様式 1

7月	【第2回 小中合同中1ギャップ検討委員会】 ・実施計画検討、他
8月	【樽川中学校・南線小学校合同校区内清掃】 ・町内会毎のグループに分かれての清掃活動
9月	【特別支援学級合同学習】 ・調理実習、スポーツ交流 ○ 学校生活・授業アンケートの実施 ・学校生活や学習の様子に関する実態把握 ・全校児童、教職員、保護者を対象に実施し総合的に分析
10月	【第3回 小中合同中1ギャップ検討委員会】 ・実施計画検討、他 ○ 小学校第6学年児童による部活動見学 ・吹奏楽部定期演奏会の案内、他 ○ 特別支援教育保護者説明会 ・特別支援教育コーディネーターから小学校の保護者への説明
11月	【中学校出前授業】 ・小学校での中学校教員による授業を実施：第6学年全学級を対象とした外国語科の授業 【中1ギャップ問題未然防止事業 第2回運営協議会】 ・授業参観 ・事業進捗状況の確認、効果の検証 ・今後の事業予定の確認と事業推進上の課題に関する協議、他 【石狩市小中連携研究会】 ・実態交流、連携強化・推進、他
12月	○ 幼保中連携 ・技術・家庭科(家庭分野)の授業として保育実習を実施 【中学校出前授業】 ・小学校での中学校教員による授業を実施：第6学年全学級を対象とした理科の授業
1月	
2月	【中学校出前授業】 ・小学校での中学校教員による授業を実施：第6学年全学級を対象とした数学科の授業 【新入生学校説明会、授業見学】 ・新入生及びその保護者を対象とした説明会、授業見学、他 【第4回 小中合同中1ギャップ検討委員会】 ・年度末反省、他 ○ 学校生活・授業アンケートの実施 ・学校生活や学習の様子に関する実態把握 ・全校児童、教職員、保護者を対象に実施し総合的に分析

6 事業の成果

- 小・中学校が連携し、義務教育9年間の見通しをもった授業改善、生徒指導に取り組んだことにより、学校生活について、生徒・保護者の肯定的な回答の割合が高くなった。

項目	対象	第3学年（昨年比）			第2学年（昨年比）			第1学年
		H28	H29	差	H28	H29	差	H29
ていねいな授業・学習 相談・進路相談	生徒	88.8	92.6	3.8	83.1	86.8	3.7	82.4
	保護者	73.8	89.2	15.4	69.5	75.7	6.2	66.7
親身な相談、対応	生徒	75.7	83.9	8.2	61.9	73.0	11.1	58.5
	保護者	72.1	83.3	11.2	60.4	58.3	-2.1	58.9

【生徒・保護者アンケートから抜粋 肯定的な回答の割合（平成29年11月実施）】

- 「出前授業」を外国語科・理科・数学科で小学校第6学年を対象に行ったことにより、中学校での学習に対する関心が高まり、中学校生活への緊張感も和らげることができた。また、早い時期から中学校進学に対する不安解消につなげることができた。
- 「石狩市教育委員会教育支援センター」、「スクールソーシャルワーカー」等との窓口を校務分掌に位置付け、加配教員に担当させたことにより、不登校の解消、未然防止、早期発見・早期対応に努めることができた。昨年度比で、5名、不登校生徒が減少した。

7 今後の課題

- 小・中学校のさらなる円滑な接続を確立するため、統一した学習規律の徹底を図るとともに、段階的な学習指導の確立を図るなど、授業改善の取組を一層推進する必要がある。
- 出前授業を相互に乗り入れる「交流授業」へ発展させるため、教育課程を検討する必要がある。
- 保護者や地域住民と連携をより深め、心豊かな生徒の育成を目指した教育活動を展開する必要がある。



◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 目指す子ども像を共有～小中連携を強化する組織づくり～

「中1ギャップ問題」や「不登校」を未然に防止するためには、中学校卒業を見据え、「目指す子ども像」を共有することが重要である。そのためには、①小学校と中学校が日常的に情報を共有して学習指導や生徒指導を行うこと、②教職員に加え、保護者や地域住民を含めた組織を形成して義務教育9年間を見通した教育活動を展開することが大切である。

★ 子どもの意欲をつなげる小中連携教育の実践～地域の教育の課題と実践の共有～

地域の教育の課題、子どもの特性を把握し、課題解決につながる小中連携の取組が重要である。そのためには、「交流授業」や「出前授業」の在り方を検討したり、行事の交流、地域を巻き込んだ行事の合同開催等を実施したりするなどして、子どもの意欲と意識を高めることが大切である。

小樽市立朝里中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 小樽市立朝里中学校（生徒数 305 名）
 小学校名 小樽市立朝里小学校（児童数 497 名）
 小樽市立豊倉小学校（児童数 12 名）

本プランの特徴

- 不登校の未然防止や人間関係のトラブルの早期発見、対応及び情報の共有化を行っています。
- 「15の春に責任をもつ」を合い言葉に、小中連携及び小小連携の充実に向けて、定期的に「小中連携協議会」を開催するとともに、小・中教職員による合同の研修会や交流会を行っています。
- 中学校進学への不安を解消し、中学校への円滑な接続を図るため、中学校教員による小学校2校合同の出前授業や小学校第6学年児童が中学校の行事を参観する場面を設定しています。

1 推進地域の特徴

朝里中学校は、小樽市の東部に位置し、朝里中学校区は、朝里・新光・朝里川温泉地区からなり、四季を通じて自然環境が整っている。本校区には、学級数が2学級（複式）の豊倉小学校と、19学級の朝里小学校の2つの小学校があり、新入生の9割以上が朝里小学校の児童である。

地域の教育に対する関心や期待は高く協力的であり、「まちづくりの会」などと連携したPTA活動が行われている。

2 推進地域の課題

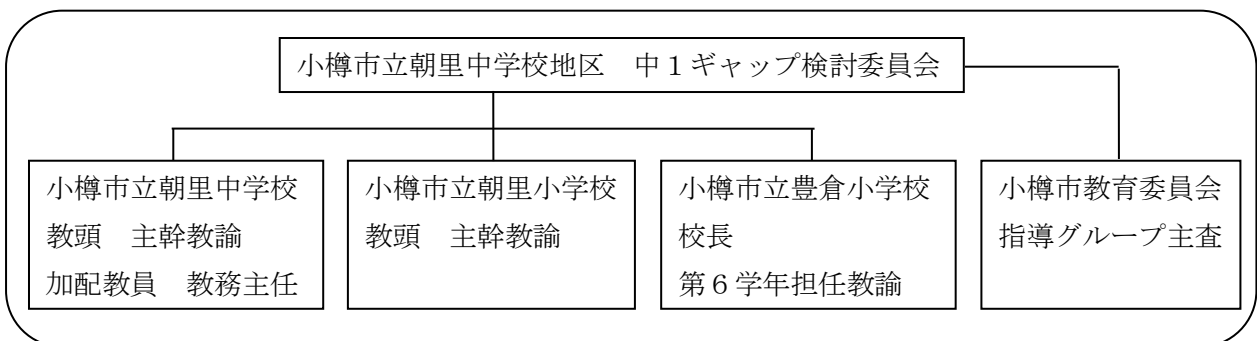
全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、携帯電話、スマートフォンの所持率が高く、使用時間も長いという結果が出ており、それに伴い、ネット利用に関するトラブルが発生するなどの生徒指導上の問題もあり、発達の段階を踏まえ、小学校と連携した道徳教育や情報モラル教育の取組が必要である。

また、学力面においては、二極化が顕著に見られ、基礎学力が定着していない生徒の割合が高いことが課題であり、小・中学校間における情報の共有や一貫性のある指導体制の確立が必要である。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 人間関係づくりの能力の育成を主眼として、進級に伴う環境の変化等に適応することができる児童生徒の育成を図る。
- (2) 義務教育9年間で系統立てた指導の確立を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



様式 1

①中学校における業務分担の明確化

担 当	業 務 内 容
教 頭	連絡協議会日程調整、各種事業日程調整、市教委・校内委員会・外部機関との連絡・調整
主幹教諭	事業計画立案・運営、各係との連絡・調整、いじめ防止、自殺予防プログラム推進
加配教員	地域との連携推進、校内事業の企画・立案・運営、「ほっと」活用推進、引継ぎ

②小学校における業務分担の明確化

- ・朝里小学校 教頭…他校との連絡調整、校内における連絡調整、主幹教諭…校内事業の企画・立案
- ・豊倉小学校 校長…他校との連絡調整、担任…校内事業の企画・立案

5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	朝里中学校	朝里小学校・豊倉小学校
4 月	<p align="center">【小中連絡協議会①】</p> <p>○ 事業の概要について日程調整 ○ 各校の特色の交流</p>	
5 月	○ 「ほっと」1回目の実施	
6 月	<p>○ 朝里小・豊倉小学校の運動会参加</p> <p>○ いじめアンケート実施</p>	<p>○ いじめアンケート実施</p> <p>○ 朝里中学校公開研究会参加</p>
	<p align="center">【小中連絡協議会②】</p> <p>○ 学力・体力向上プランの交流 ○ 出前授業の調整</p>	
7 月	○ 情報モラル教室	○ 情報モラル教室参加の案内
	<p align="center">【地域懇談会】</p> <p>○ 各校校長による学校経営方針等の説明</p> <p>○ 中1ギャップ問題未然防止に関わる各学校の進捗状況の説明</p> <p>○ 学校と地域住民による中1ギャップ問題未然防止に係る取組についての意見交流</p>	
	○ 吹奏楽部の出前演奏会	○ 朝里小学校での演奏会に豊倉小学校児童も参加
	<p align="center">【潮ねりこみ】</p> <p>○ ねらい：学校・地域、保護者が連携し、子どもたちを共に育てていく雰囲気を作成する</p> <p>○ 期 日：平成 29 年 7 月 29 日（土）</p> <p>○ 参加者：小中児童生徒、教職員、保護者等約 250 名</p>	
8 月	○ 朝里小学校地域公開日参観	
	○ 北海道教育カウンセリング I C T 活用事業（スカイプ）実施	
9 月	<p align="center">【小中連絡協議会③】</p> <p>○ 全国学力・学習状況調査の分析、交流</p> <p>○ 運営協議会開催について学習・生活規律の交流</p> <p>○ 小中・小小連携事業について</p>	

様式 1

<p>10月</p>	<p style="text-align: center;">【出前授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ねらい: 第6学年に対して中学校の授業スタイルや雰囲気を理解させるとともに、中学校の教員が、児童の実態や各小学校における学習規律等を把握する。 ○ 内 容 <ul style="list-style-type: none"> ・音 楽: 中学校の文化祭合唱コンクールのリハーサルを両校児童が見学 ・体 育: 朝里小学校において、保健領域(薬物、たばこの害)についての授業を中学校教頭及び体育科教員1名が実施(両校児童が参加) ・外国語活動: 朝里小学校において、英語で指示をして体を動かすなどの授業を中学校英語科教員2名及びALTが実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケート実施
<p>11月</p>	<p style="text-align: center;">【吹奏楽部 開校 70 周年記念演奏会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 吹奏楽部が開校 70 周年記念演奏会を実施(両校児童、保護者、地域にも案内) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケート実施
<p>12月</p>	<p style="text-align: center;">【三校交流 PTA ミニバレー大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3校混合のチームを編成し、ミニバレーを通じた保護者間の交流 	<p style="text-align: center;">【児童会・生徒会意見交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小樽市「いじめ防止サミット」に向けた意見の交流 ○ 朝里小学校公開研究会参加 ○ 「ほっと」2回目実施(第1学年)
<p>1月</p>	<p style="text-align: center;">【小中連携協議会④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の連携 ○ 次年度に向けて ○ 報告書作成について ○ 「ほっとプラス」実施 ○ 豊倉小学校 保護者説明会参加、保護者向けに中学校の生活や学習に関する説明実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊倉小学校 保護者説明会
<p>1月</p>	<p style="text-align: center;">【教職員研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SCによる教職員研修会の実施 	<p style="text-align: center;">【小中連携協議会⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中教員の交流、引継ぎ ○ その他について
<p>2月</p>	<p style="text-align: center;">【小学校、中学校教職員交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年の授業を参観、関係教職員の懇談 ○ 「ほっと」2回目(第1学年3回目)実施 ○ 「ほっとプラス」2回目実施 	<p style="text-align: center;">【実用英語検定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校児童にも案内、中学校を準会場として実施
<p>3月</p>	<p style="text-align: center;">【朝里小学校におけるスキー授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教師が指導者として参加 	<p style="text-align: center;">【中学校一日体験入学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者説明会、授業参観、校舎見学
<p>3月</p>	<p style="text-align: center;">【小中連携協議会⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の反省 ○ 次年度の「中一ギャップ問題未然防止事業」計画 ○ 教育課程の連携、日程調整 ○ 教職員研修など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケート等を活用した確実な引継ぎの実施

6 事業の成果

- これまでに実施していた小学校、中学校の学校行事や出前授業、授業交流などを改めて「中1ギャップ問題解消」という目的に照らし合わせ、各行事のねらいや活動内容等を整理することで、出前授業を小学校2校合同で実施するなど、中1ギャップ問題未然防止という目的意識をもった活動を推進することができた。特に小学校、中学校のお互いのニーズを意識しながら、生徒が地域住民等に認められる機会を設けたり教育相談に係る校内研修を実施したりするなど、計画的に事業を推進することができた。きめ細かな指導を意識することを通じ、全国学力・学習状況調査生徒質問紙では「先生は自分の良いところと認めてくれている…90.4%（前年度 84.2%）」「先生は分かるまで教えてくれる…80.6%（前年度 77.9%）」と前年度からの向上が見られた。
- 小中連携を推進し、双方の教員が学校を行き来する中で、児童生徒の教職員に対する安心感や親近感が生まれてきており、特に小学校の児童に顕著に見られる。また、小中連携のみならず、小小連携を推進することで、特に小規模校の児童が様々な児童と交流を深めることができ、次年度以降の中学校入学に向けて、多くの人たちと人間関係を構築していく上でよい効果が期待できる。
- 本事業の会議や出前授業などを通して、連携校の教職員が互いの学校における教育活動の状況やその成果、課題について、改めて理解を深めることができた。また、9年間を見通した教育活動の構築が、学力や生活など様々な場面に有効であり、整備の必要性を共有することができた。
- 学校が地域の行事に積極的に関わっていくことで、保護者のみならず地域住民とのコミュニケーションが増し、学校と保護者や地域との情報共有が図られた。

7 今後の課題

- 児童生徒の学力向上に向け、教育課程の共有や接続を図っていくため、今後、外国語活動と英語、道徳など一貫したカリキュラム編成に向けた取組を行っていく必要がある。
- 出前授業が単なる出張授業にとどまらず、中学校教員による児童個々の学習状況の把握や、卒業後の中学校での学習意欲の向上につながるような小中の連携の授業についての研修、取組が必要である。
- 学校と家庭、地域の連携をさらに推進し、児童生徒の人間関係づくりの能力を高めていくため、地域行事に参加するだけでなく、地域人材を積極的に活用した体験的な活動を実施するなどの工夫が必要である。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 「15の春に責任をもつ」を合い言葉にした目指す子ども像の共有

義務教育9年間を見据えて、どのような子どもを学校、保護者、地域で育てていくのかという子ども像を共有することで、小中の円滑な接続、連携を図ることができる。

★ 不登校生徒の未然防止、傾向把握と小中教職員の共通理解

小学校での児童の状況について出前授業を通して中学校教員が把握した上で引継ぎを行い、情報を共有することで、中学校入学後に生徒が抱える困難を想定し、対応することができ、不登校の未然防止、不登校傾向を早期に発見することができる。

★ 児童生徒理解の充実と一貫性のある指導体制の構築

子ども理解支援ツール「ほっと」の活用、分析や教育相談の充実、情報共有をスムーズに行い、小学校から中学校につながる一貫性のある指導体制を構築することで、人間関係づくりの能力を高め、学力、体力の向上につなげていくことができる。

共和町立共和中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	共和町立共和中学校（生徒数 135 名）
小学校名	共和町立東陽小学校（児童数 102 名）
	共和町立北辰小学校（児童数 78 名）
	共和町立西陵小学校（児童数 85 名）

本プランの特徴

- 「ほっと」の実施による児童生徒理解の充実に努め、小学校から中学校への引継ぎの資料とするなど小・中学校間の情報の共有を図っています。
- 学習規律の確立のために各校での手立てや生活規律の統一に向けて、担当者間の意見交換及び交流を行っています。
- 不登校の未然防止・早期発見・早期対応及び中学校入学時の不安感解消に向けて、体験入学と合わせてアンケートを実施しています。

1 推進地域の特徴

町内には小学校3校、中学校1校があり、通学区域が広範なため、一部の児童生徒はスクールバスを利用して通学している。

各種事業を通じて幼稚園、小学校、中学校及び高等学校が連携を図っており、教育指導体制や教育内容の充実、教育施設の整備を図るとともに、郷土愛をはぐくむため、自然や地場産業などを素材とした学習を推進し、各学校が地域文化の核として愛される学校づくりを進めている。

2 推進地域の課題

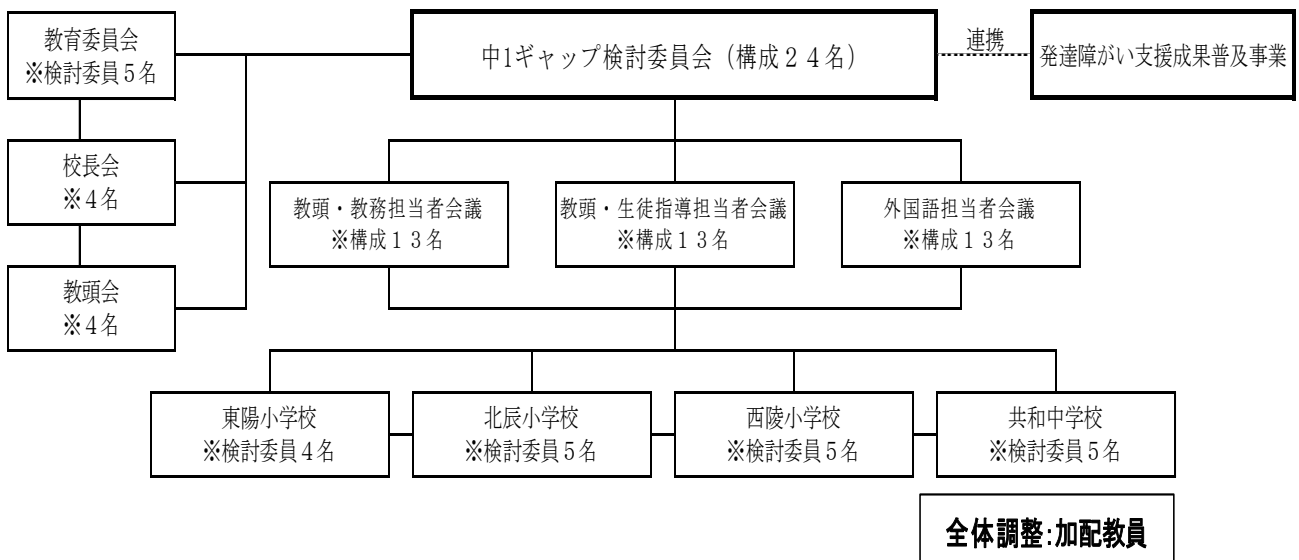
生活面においては、落ち着いた学校生活を過ごす児童生徒が多いものの、自尊感情が低い児童生徒が多い傾向が見られるとともに、この数年は不登校、不登校傾向の生徒が各学年に数名見られるなど、生徒指導上の課題が明らかになり、発達の段階を踏まえた小学校と連携した取組が必要である。

また、学習面では、全国学力・学習状況調査の結果において、全ての教科の平均正答率が全国平均を下回っており、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない生徒の割合が高い。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 小・中学校で一貫した指導の充実を図る。
- (2) 学校生活への不安感などについてきめ細かな把握に努めるとともに、入学後の支援の充実を図る。
- (3) 「合同学習」の実施により、将来同じ中学校に入学する児童間の交流を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	共和町立共和中学校	共和町立東陽小学校 共和町立北辰小学校 共和町立西陵小学校
～3月	【年度計画の作成】	
	○ 年間活動予定の確認、合同学習実施日についての協議	
～3月	【新入生徒に関する引継ぎ】	
	○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童の実態や効果的な支援策についての情報の共有 ○ 食物アレルギーに関する児童の実態や効果的な支援策についての情報の共有	
4月	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 生徒の状況（集団・個別）確認	○ 生徒指導方針、学校いじめ防止基本方針、緊急時の対応等の確認 ○ 児童の状況（集団・個別）確認
5月	○ Q-Uの実施	
	【第1回運営協議会】	
		○ 検討委員会委員の推薦、検討委員会の設立 ○ 協議会の目的や所掌事項・年間計画の確認
6月	○ いじめアンケート①の実施	○ いじめアンケート①の実施
	【第1回検討委員会】	
	○ 本事業及び検討委員会専門部会担当業務について確認・協議	
		【第1回教頭教務担当者部会】
		○ 合同学習の開催についての協議
7月	○ 第1・2学年へのアンケートの実施（中学校入学後の困り感の把握）	【合同学習】 ○ 小学校第3学年による「らいでん食農教室」（総合的な学習の時間）の実施
	【教職員交流・研修事業】	
	○ 研修事業・・・町内施設の利活用の在り方、交流事業・・・研修後の意見交換	
		【第1回生徒指導担当者部会】
		○ 「ほっと」実施について協議 ○ 児童生徒の状況、生活のきまりについての意見交換
8月	【「ほっと」の実施※～9月】	
		○ 対象学年・・・小学校第5・6学年、中学校第1・2学年
9月	【小学校授業参観】 ○ 各小学校授業参観日に訪問し、第6学年を中心に授業参観	【合同学習】 ○ 小学校第4・5学年による体育の3校合同学習の実施
	【第2回運営協議会】	
	○ 1学期間の取組の成果と課題・今後の方針の確認	
	【第2回教頭教務担当者部会】	
		○ 「共和町学びのルール」（学習規律）達成のための各校の取組について意見交換 ○ 中学生アンケートの集計結果についての報告
		【第1回外国語教育担当者部会】
		○ 次年度からの先行実施に向けての協議（日課表や教育課程の指導の在り方等）

様式 1

9月	<p align="center">【異校種交流・ボランティア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共和高校のカンボジアにおける海外ボランティア研修に係る「千羽鶴プロジェクト」への協力 ○ 海外ボランティア研修事業の説明会による児童生徒と共和高校の生徒との交流 	
11月	○ いじめアンケート②の実施	○ いじめアンケート②の実施
	<p align="center">【第2回生徒指導担当者部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の分析結果についての講演会及び意見交換 ○ 児童生徒の状況、生活のきまりについての意見交換 	
	<p align="center">【異校種交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共和高校海外ボランティア研修事業の報告会開催による児童生徒と共和高校の生徒との交流 	
12月	<p align="center">【第2回外国語教育担当者部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度の年間計画案・ALT配置案についての協議 ○ 教材についての情報共有 ○ 各校の取組状況についての意見交換 	
	<p align="center">【第2回検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の進捗状況及び今後の取組についての確認・協議 	
1月	<p align="center">【公開授業の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町内小・中学校教職員向け外国語活動の公開授業（タブレット活用による公開授業） 	
2月	<p align="center">【共和中学校 体験入学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の1日体験入学・授業体験・部活体験、入学に向けてのアンケート 	
	<p align="center">【第3回教頭教務担当者部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「共和町学びのルール」（学習規律）についての意見交換 	
3月	<p align="center">【新入生徒に関する引継ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童についての情報の共有 ○ 食物アレルギーに関しての確認 	
	<p align="center">【第3回検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間計画の確定 ○ 合同学習日など次年度年間活動予定の確認 ○ 次年度計画案についての確認・協議 	

※ その他の取組

- 本事業における「事業だより」の発行（随時発行※6月以降毎月1回発行）
- 町広報での合同学習の紹介
- 各小学校第6学年の防災無線による朝の声かけ・呼びかけ運動の実施
- 町食育推進委員会と連携した「早寝早起き朝ご飯」運動の実施

6 事業の成果

- 中学校入学後の「困り感」の把握のため、加配教員が中心となり、中学校第1・2学年へのアンケートの実施・分析をすることで、中学校1日体験入学で在校生との交流の時間を充実させるなど内容の改善につながった。さらには、合同学習の実施による児童間の交流はもとより、小学校間での交流・連携につながった。

【中学校第1・2学年アンケートから抜粋】

設 問 項 目	選択項目等	割合		
		1年A組	2年A組	2年B組
中学校に入学して、不安になったり困ったり（驚いたこと・戸惑ったこと）はありますか。（複数回答）	友達	16.1%	30.0%	28.6%
	部活動	16.1%	26.7%	10.7%
	授業	25.8%	40.0%	35.7%
	先生	6.5%	20.0%	3.6%
	先輩	12.9%	10.0%	21.4%
	テスト・成績	51.6%	76.7%	75.0%
	なし	19.4%	16.7%	14.3%
中学校入学直後に不安になったり困ったり（驚いたこと・戸惑ったこと）は解消できましたか。	できた	54.8%	86.7%	67.9%
	できていない	6.5%	10.0%	14.3%
小学生に中学校に入学するときの不安や心配事を減らすためには、どのような活動があれば良いと思いますか。 ※記入式（複数回答のあったものを抜粋）	体験入学・見学会			
	小学生と中学生の交流			
	中学校の紹介			
	小学生同士の交流			

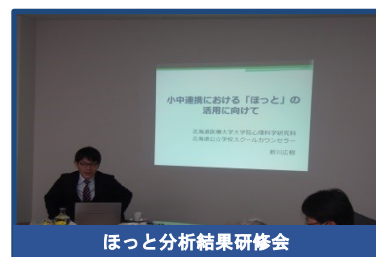
- 「ほっと」の実施により、児童生徒の状況を客観的にとらえることができ、今後の学級経営など生徒指導につながった。



小学校第5学年「合同学習（体育）」



異校種交流（ボランティア活動）



ほっと分析結果研修会

7 今後の課題

- 今年度取り組んできた各種事業を単年度の取組とせず、次年度以降も「継続」していくことで、今後も更に成果を得ることができると考える。そのためにもPDC Aサイクルによる取組の改善に努めていく必要がある。
- 不登校生徒の未然防止として各種の取組を行っているが、福祉担当者と連携し、今現在の不登校生徒の支援の充実も図っていく必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 未然防止～子どもの視点からの「中学校入学への期待」を高める工夫

小学校・中学校が共通・一貫した指導による児童の興味・関心、自己肯定感の向上に努めていくことが必要である。そのため、中学校入学前のアンケートの実施などにより、中学校入学への児童の不安や心配事、中学校入学前に小学校でしてほしいことなどを的確に把握し、入学前後のガイダンスの改善・強化につなげていくことが大切である。

さらに、各校種の強みを生かし、共通・一貫して実施できる取組を見出し、継続していくことで、充実した小中連携が推進される。また、この取組を保護者や地域へ情報発信することで、取組内容がより明確になる。

★ 早期発見・早期対応～各種調査や児童生徒を理解するための支援ツールの活用

支援ツールである「Q-U」や「ほっと」の活用で児童生徒一人一人の内面を客観的にとらえ、不登校やいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に努めることが必要である。

また、この結果を学級経営など生徒指導に的確に生かしていくことで組織的に対応に努めることができる。

室蘭市立桜蘭中学校区における中 1 ギャップ解消プラン

中学校名	室蘭市立桜蘭中学校（生徒数615名）
小学校名	室蘭市立知利別小学校（児童数364名）
	室蘭市立旭ヶ丘小学校（児童数301名）
	室蘭市立八丁平小学校（児童数489名）

本プランの特徴

- 中学校区の小・中学校において、公開授業と研究協議会を開催し、義務教育9年間を見通した地域の教育の成果や課題の共有化を図っています。
- 中学校区の小・中学校において、統一した学習規律として、「授業の心構え五か条」を策定し、統一した指導を通して、小・中学校の円滑な接続に取り組んでいます。平成29年度は、中学校区として、学習指導に関する「校区教育スタンダード」の策定に向けて検討を進めています。
- 平成32年度の中学校区内の知利別小学校の閉校を見据えて、統合校となる旭ヶ丘小学校との統合に向け、「校区教育スタンダード」策定等の新たな取組を行っています。
- 学校生活への適応状況を客観的に把握し、適切な支援を行うために、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しています。また、今年度から、中学校入学後の生徒の適応状況の把握のために「ほっと」と併用して、「Q-U」を実施しています。
小学生から、中学校第1学年の経年比較については、「ほっと」による見取りを行い、中学校においては、「Q-U」を用いながら、生徒の適応状況を把握し、指導に役立てています。

1 推進地域の特徴

室蘭市は、北海道の南西部に位置し、港を中心に鉄の町として発展した重化学工業と観光を基盤とした街である。桜蘭中学校は市の中心街に位置し、校区内に、3つの小学校があり、生徒数600名以上の大規模な中学校である。保護者や地域の教育に対する関心や期待は大きく、学校の教育活動にも協力的な地域である。小中連携を基盤に、まちぐるみ、地域ぐるみで連続性のある9年間を見通した教育の創造と実践を目指している。

2 推進地域の課題

本推進地域は、胆振管内の中でも大規模な中学校区であり、意欲と活気のある地域である。児童生徒は素直で明るく、リーダー性も優れており、集団として力を発揮することが期待できる。学力面においても意欲が高く、基礎的・基本的な学力がしっかりと身に付いている児童生徒が多い。

一方、3つの小学校から、1つの中学校に入学することにより、社会的コミュニケーションスキルの定着が不十分であったり、家庭学習の習慣化が十分に図られていなかったりする児童生徒も多く、生活面や学習面における課題が見られる。これらを解決するためには、小・中学校の連携を主軸とし、学校・家庭・地域が児童生徒に対する一貫した指導について共通理解を図り、教育活動を充実する必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 桜蘭中学校区連携目標・・・「夢や目標を持ち、たくましく生きる児童生徒の育成」
- (2) 重点目標・・・「小中を貫く学習ルールや学習環境づくり」
「明るくあいさつ、まじめな清掃」

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
室蘭市立桜蘭中学校	教 頭	室蘭市立旭ヶ丘小学校	教 頭
室蘭市立桜蘭中学校	主幹教諭	室蘭市立旭ヶ丘小学校	教諭（教務主任）
室蘭市立桜蘭中学校	教諭（小中連携担当）	室蘭市立八丁平小学校	教 頭
室蘭市立知利別小学校	教 頭	室蘭市立八丁平小学校	主幹教諭
室蘭市立知利別小学校	教諭（教務主任）	室蘭市立八丁平小学校	教諭（教務主任）

5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

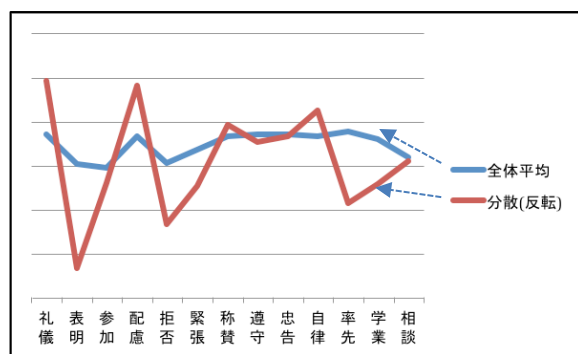
時 期	室蘭市立桜蘭中学校	室蘭市立知利別小学校、室蘭市立旭ヶ丘小学校、室蘭市立八丁平小学校
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に関する交流 <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、特別支援教育に関わる内容 ○ 桜蘭中学校区小中連携プランの組織設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業児童に関する交流（中学校入学後の学級編成等への協力） <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係、特別支援教育に関わる内容 ○ 桜蘭中学校区小中連携プランの組織設置
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間推進計画の検討 ○ 学力・体力の向上に係る交流 <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p> </div>		
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校における新体力テストの指導の協力 ○ 全校生徒における「Q-U」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テスト補助の受入れ ○ 校内研究会の交流
6 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>母校小学校運動会のボランティアの実施</p> </div>	
7 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第1回中1ギャップ運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間活動計画の確認 ○ 不登校・いじめの分析 <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>桜蘭中学校区小中連携公開授業研究会・交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の全学級の授業公開 ○ 小小連携（英語教育） ○ 10分科会による研究協議の開催 ○ 教職員交流会 <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「Q-U」の分析と学年交流 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>桜蘭中学校区4校PTA交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校のPTA活動の交流 </div>		

様式 1

	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <p>○ 公開授業研究会・交流会等の成果と反省 ○ 「ほっと」の推進計画</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 全校生徒「Q-U」の実施</p> <p>○ 校内研究会の交流</p>
9月	<p>桜蘭中学校区「ほっと」実施推進会議</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 「ほっと」の実施、分析</p> <p>○ 「ほっと」の実施、分析</p>
10月	<p>第2回中1ギャップ運営協議会</p> <p>○ 活動の成果と評価、考察報告</p> <p>○ 桜蘭中学校区「ほっと」の分析結果の交流</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 公開研究授業の交流</p> <p>○ 校内研究会の交流</p>
11月	<p>○ 全校生徒「Q-U」の実施</p>	<p>○ 公開研究授業の交流</p>
12月	<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進会議）</p> <p>○ 「ほっと」の分析結果の活用 ○ 学力・体力の向上に係る交流</p> <p>○ 「校区スタンダード」の策定に向けて（重点項目の整理）</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 「Q-U」の分析と学年交流</p> <p>○ 校内研究会の交流</p>
1月	<p>中1ギャップ解消を目指した新入生説明会及び体験入学</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 「ほっと」の分析データの活用</p> <p>○ 「ほっと」の分析データの活用</p>
2月	<p>中学校出前授業の実施</p> <p>○ 小学校における中学校教員による授業を実施（小学校が希望する教科）</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	
3月	<p>○ 新入生学習サポートの実施</p> <p>○ 新入生に関する引継ぎ （綿密な引継ぎと学級編成上の配慮）</p> <p>中1ギャップ検討委員会（小中連携会議）</p> <p>○ 今年度の取組の成果と反省 ○ 次年度に向けた計画の検討</p> <p>※小中連携担当（加配教員）による企画・運営等</p>	<p>○ 中学校入学準備に関わる指導</p> <p>○ 第6学年児童に関する引継ぎ （綿密な引継ぎと学級編成への協力）</p>

6 事業の成果

- 中学校区の小・中学校が連携し、義務教育 9 年間を見通して、生活習慣や、学習習慣に関する一貫性のある指導を徹底したことにより、児童生徒の学力向上を図ることができた。
- 小・中学校で統一した指導を行うことにより、児童生徒や保護者に安心感を与え、中 1 ギャップ問題の解消に向けた取組の一助とすることができた。
- 小・中学校間において、学習規律「授業の心構え五か条」を策定したことや、授業改善に向けた意見交換等を行うことにより、中学校区内において、連続性や接続性のある学習活動を展開することができるようになってきた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用することにより、児童生徒のコミュニケーションスキルの課題等を客観的に把握し、各学校において、調査結果を踏まえ、活動の改善を図ることができた。



「ほっと」の結果



「あいさつ」の推進活動

7 今後の課題

- 小中連携や小小連携など、学校間の取組を基盤としながら、学校と保護者、地域との連携を図り、地域の学校教育活動の充実に向けた取組をより一層推進する必要がある。
- 義務教育 9 年間を見通し、小・中学校の一貫したカリキュラムの編成や、児童生徒の学力向上に向けた具体的な取組を充実する必要がある。
- 「ほっと」や「Q-U」において得た客観的な調査結果と、「ピア・サポート」や「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」などのコミュニケーションスキルを向上させるプログラムを有機的に結び付け、児童生徒のコミュニケーションスキルの向上に向け、より効果的な方法を検討する必要がある。

◇◇◇ 中 1 ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 地域の教育の課題と実践の共有化

小中連携による充実した教育活動を実現するためには、中学校区の小・中学校において、「授業交流研究協議会」を開催し、地域の教育の課題と成果を共有することが有効である。

★ 小・中学校が連携した 9 年間を見通した教育活動の展開

中 1 ギャップを防止するためには、中学校区で統一した学習規律や生徒指導上の決まりを策定して共通理解を図り、指導の系統性を大切にしながら、児童生徒の発達の段階に応じた指導を行うことが効果的である。

★ 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した客観的な分析による対策

不登校やいじめの未然防止に向けては、児童生徒のコミュニケーションスキルを育む必要があり、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用して、客観的な分析による児童生徒のコミュニケーションスキルの現状や課題を把握し、学習指導や生徒指導に生かすことにより、児童生徒の豊かな人間関係づくりを支える必要がある。

伊達市立伊達中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	伊達市立伊達中学校 (生徒数594名)
小学校名	伊達市立伊達小学校 (児童数587名)
	伊達市立東小学校 (児童数369名)
	伊達市立黄金小学校 (児童数 28名)
	伊達市立稀府小学校 (児童数 63名)

本プランの特徴

- 義務教育9年間を見通した連続性のある指導方法や、系統性を踏まえた取組を策定し、各推進校の実態を相互に把握することにより、指導体制の確立を図っています。
- 中1ギャップアンケート（生活アンケート）の実施を基に、生徒の意見や思いを適切に把握し、課題解決に向けた指導に生かしています。

1 推進地域の特徴

伊達市は北海道の南西部に位置し、温暖な気候と豊かな自然を生かし、野菜を中心とする農業や、噴火湾におけるホタテの養殖などの漁業が盛んな地である。

伊達中学校は市の中心街に位置しており、かつては、伊達小学校、東小学校の2校の卒業生が入学していたが、平成29年度に、達南中学校が伊達中学校に統合となり、中学校区が稀府小、黄金小を含む広範囲となったため、スクールバスの運行が始まった。平成29年度の新入生は210名を超え、全校生徒は約600名の大規模校となった。教育に対する保護者や地域の関心や期待は大きく、学校の教育活動に協力的な地域である。

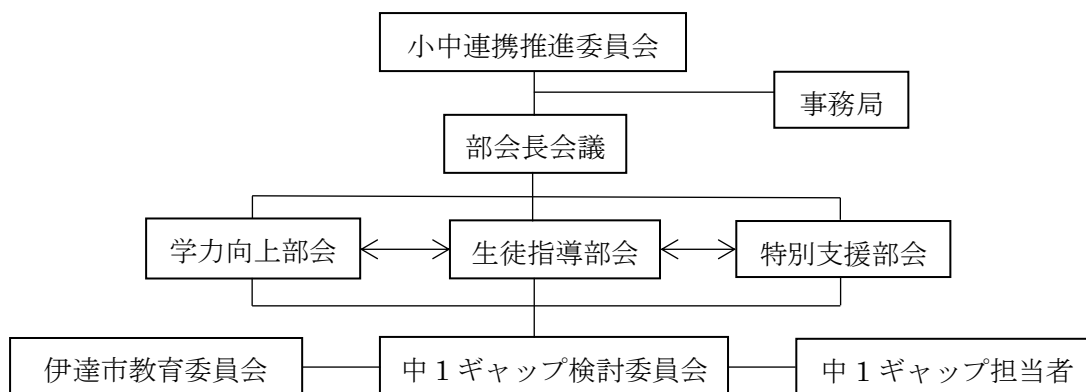
2 推進地域の課題

中学校において深刻ないじめの事例は認められないが、例年、中学校生活に適応できずに不登校状態になるケースや、コミュニケーション能力の不十分さに起因する集団不適応や問題行動等の事案が確認されている。学校統合の初年度ということもあり、人間関係づくりや学校間の連携促進、家庭や関係機関との情報や目的を共有する必要がある。また、学校の教育指導の充実とともに、家庭学習を含む学習習慣の定着や望ましい生活習慣の確立に向けた取組を推進する必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 「伊達中学校区小中連携推進委員会」が中心となり、児童生徒の課題を解決するために共通・継続して取り組む教育活動を整備し、義務教育9年間を見通し、系統立てた指導の確立を図る。
- 児童生徒のコミュニケーション能力の育成や、他者との関わりを通して、社会的スキルを身に付け、学級・学年集団に適応するとともに、よさや可能性を発揮することができる児童生徒を育成する。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	伊達市立伊達中学校	伊達市立伊達小学校、伊達市立東小学校 伊達市立黄金小学校、伊達市立稀府小学校
4月	○ 新入学生徒に関する交流 ・学習、生活、交友関係、特別支援教育	○ 小学校卒業児童に関する交流 ・学習、生活、交友関係、特別支援教育
5月	○ 第1学年生徒教育相談	
<p>中1ギャップ検討委員会（小中連携推進委員会）</p> <p>○ 年間推進計画 ○ 学力向上部会、生徒指導部会、特別支援部会の設置</p>		
<p>第1回中1ギャップ運営協議会</p> <p>○ 事業内容の確認 ○ 小中連携に関わる意見交換</p>		
6月	○ 中1ギャップ検討委員会部会長会議の実施 ・今年度の重点の確認 ○ 生徒理解学習会(校内研修) ○ 生徒会「いじめ防止集会」の実施 ○ いじめ調査の実施	
<p>小学校外国語活動乗入れ授業の実施（黄金小学校・稀府小学校・伊達中学校）</p> <p>○ 小学校の合同授業に伊達中学校英語科教諭、伊達市ALTが指導者として参加</p>		
7月	○ 第1学年生徒進路説明会	
<p>推進校教頭会議</p> <p>○ 活動計画推進に向けた確認</p>		
<p>夏休み学習ボランティアの実施（東小学校、伊達中学校）</p> <p>○ 小学校夏休み学習会に伊達中学校生徒がボランティアとして参加、補助</p>		
8月	<p>校区内統一生活リズムチェックシートの活用、ノーゲームデーの実施</p>	
9月	<p>特別支援学級中学校見学会・保護者説明会（伊達小学校、東小学校、伊達中学校）</p> <p>○ 小学校特別支援学級第6学年児童による中学校授業見学、保護者相談会の実施</p>	
<p>中1ギャップ検討委員会</p> <p>○ 中1ギャップアンケート（生活アンケート）の実施について ○ 小中連携における指導項目・内容の確認 ○ 小・中学校引継ぎの実施について</p>		
10月	○ いじめ調査の実施	○ 伊達小学校公開研究会の開催

様式 1

11月	○ 中1ギャップアンケート(生活アンケート)の実施・集計	
第2回中1ギャップ運営協議会 ○ 活動の成果と課題について ○ アンケート結果の交流、今後の取組について		
12月	○ 生徒理解学習会(校内研修)	
特別支援学級中学校見学会・保護者説明会(稀府小学校、伊達中学校) ○ 小学校特別支援学級第6学年児童による中学校授業見学、保護者相談会の実施		
	○ いじめ調査の実施	○ 校区内小学校において中1ギャップに関する調査(アンケート)の実施
教職員合同研修会の実施(黄金小学校、東小学校、伊達中学校) ○ 伊達市公立学校スクールカウンセラーによる研修会 ○ 児童生徒の心のケアに関する研修		
学力向上部会の開催 ○ 今年度の取組、成果と課題について		
1月	校区内統一生活リズムチェックシートの活用、ノーゲームデーの実施	
2月	○ 小・中学校新年度引継ぎについて ・推進計画の提示	
伊達中学校オープンスクールの実施(各小学校、伊達中学校) ○ 中学校生活に向けたガイダンス ○ 中学校における授業体験		
生徒指導部会の開催 ○ 今年度の取組、成果と課題について		
3月	○ 第1学年生徒教育相談 ○ いじめ調査の実施 ○ 中1ギャップ検討委員会部会長会議の実施 ・今年度の反省、来年度の活動について確認	
推進校教頭会議 ○ 今年度の反省、来年度の活動計画の確認		
中1ギャップ検討委員会(小中連携推進委員会) ○ 今年度の成果と課題、来年度の重点、方向性の確認		
小・中学校間における新入学生の引継ぎ		

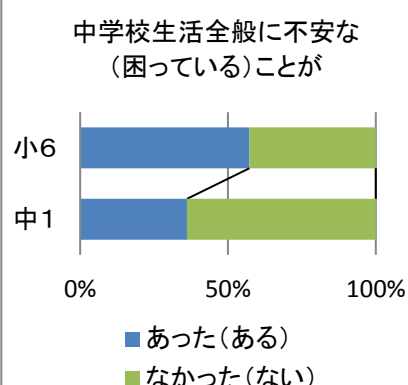
6 事業の成果

- 中学校において作成した「中1ギャップアンケート（生活アンケート）」（全12項目）を実施することにより、第1学年生徒が、何をギャップとして感じているのかについて、小・中学校の教師間で実態を把握することができた。
- 中学校区の小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した連続性のある学習習慣や生活習慣の確立を図る指導に向け、各学校の現状を確認し、見直しを行うことができた。
- 昨年度まで小・中学校間で取り組んできた「外国語活動乗入れ授業」や「特別支援学級授業見学相談会」など、各学校や学級が抱えている課題に応じた活動の方向性を見い出すことができた。

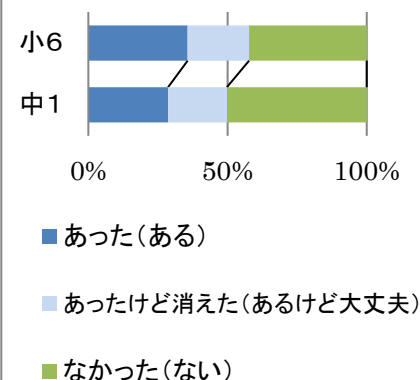
7 今後の課題

- 組織の連携を図る上で、より明確で具体的な方向性や到達目標を設定し、全教員において共通理解を図る必要がある。
- 生徒へのアンケート調査の実施時期や回数について、指導に実効性をもたせるためには、年度当初の早い時期に実施するとともに、複数回実施するなど、実施方法を工夫する必要がある。
- これまでに取り組んできた小中連携推進委員会の活動と、中1ギャップ問題に関わる取組の関連を明確にするなど、取組内容を整理する必要がある。
- 小中連携はもとより、中学校区内における小小連携の充実を図るとともに、保護者や地域に対して、積極的に学校の取組を発信することにより、望ましい生活リズムや家庭学習の定着等についての理解を促し、協力を得る必要がある。

【中学校第1学年に実施したアンケート】
～小6と比較して回答した結果～



学習に不安な
(困っている)ことが



◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

- ★ 未然防止～小中連携による9年間を見通した教育活動の展開と指導体制の構築
不登校等の中1ギャップ問題を未然に防ぐために、教職員の共通理解を図り、各推進校の実態を踏まえた学習規律や生徒指導上のきまりを策定し、指導の系統性や、児童生徒の発達の段階に応じた指導を行うことが大切である。
- ★ 早期発見～生徒の実態把握「中1ギャップアンケート(生活アンケート)」の実施
中1ギャップ問題を早期に発見するためにアンケートを実施し、生徒の思いを把握し、推進校間で共有しながら学習指導や生徒指導に生かすことが有効である。
- ★ 早期対応～児童生徒の変化を見落とさない指導体制の確立
日常の教育活動の中で、児童生徒の心の変化を見取り、組織的に指導することが有効である。各学校においては、生徒理解に努めるとともに、中学校区の小・中学校間で交流や連携、研修を深め、成果と課題を共有することが大切である。

長万部町立長万部中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名	長万部町立長万部中学校(生徒数103名)
小学校名	長万部町立長万部小学校(児童数189名) 長万部町立静狩小学校 (児童数 10名)

本プランの特徴

- 長万部町教育連携会議を通じた小中高1 2年間を見通した児童生徒の育成を基盤とし、小・中学校の円滑な接続を目指し進めています。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」や「中学校生活に関するアンケート」を活用し、学校生活への適応状況の把握と、児童生徒に対する適切な支援に努めるとともに、本事業の取組の改善に役立てています。
- 小・中学校の円滑な接続を目指した「乗り入れ授業」「小・中学校合同の活動・取組」等を行い、児童生徒間交流及び職員間の連携を図っています。

1 推進地域の特徴

長万部町には、長万部小学校、静狩小学校、長万部中学校、長万部高等学校、東京理科大学があり、長万部町教育連携会議を通じて、小中高の連携強化を図り、12年間で子供たちを育む体制づくりに努めている。さらに、東京理科大学と連携し、理科実験教室、ALT派遣、学習サポート等の取組が継続して行われている。

2 推進地域の課題

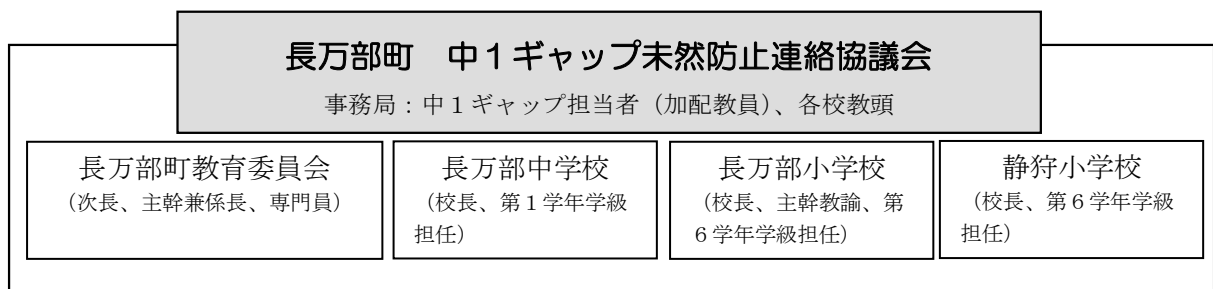
どの学校の児童生徒も総じて明るく素直である。長万部小学校と静狩小学校では小小連携を図り、合同の授業や活動を行い、中学校入学後の学習・生活を想定した取組を実施している。

しかし、中学校入学後に、集団になじめない、対人関係をうまく築けない、学習に十分適応できないなど様々な原因で不登校になる生徒が多い。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・児童生徒同士の交流や教職員の交流・派遣などを通じた小・中学校の円滑な接続による、中1ギャップ未然防止の取組の充実
- ・小・中学校の教職員による情報交流や生徒指導に関する合同研修会の実施等による、いじめ・不登校等の未然防止

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	長万部町立長万部中学校	長万部町立長万部小学校 長万部町立静狩小学校
3月	【新入生に関する小・中学校引継ぎ】 ○ 児童一人一人の学習・生活・家庭環境等に関する引継ぎ	
4月	【第1回 長万部町家庭学習強調週間、携帯・スマホ・ゲーム使用制限週間】 ○ 小中高が連携した家庭学習習慣の確立等のための取組 ○ 期間：4月10日（月）～4月17日（月） 【小・中学校合同研修会の実施】 ○ 長万部高等学校ソーシャルスキルトレーニング授業の参観及び研修会参加	
5月	【第1回 長万部町 中1ギャップ未然防止連絡協議会】 ○ 事業内容の確認 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の活用について 【第1回 中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】	
6月	【小学校での乗り入れ授業開始】 ○ 長万部中学校の英語担当教諭（加配教員）が週1時間、第5・6学年の外国語活動の授業を実施（各学級担任とのTT。また、定期的に長万部高等学校の英語担当教諭がT3として指導） ○ 静狩小学校については、時程の調整などをした後、10月に実施。 【第1回 長万部町不登校情報交換会議】 【第2回 長万部町 中1ギャップ未然防止連絡協議会】 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施・集計・分析方法等について ○ 「中学校生活に関するアンケート」の実施について ○ 第2回家庭学習強調週間、児童会と生徒会によるいじめの根絶に係る集会の実施、歌声集会の実施について ○ 自殺予防教育プログラム検討委員会 【子ども理解支援ツール「ほっと」及び「中学校生活に関するアンケート」の実施①（小学校第5・6学年、第1学年）】	
7月	【小学校の夏季休業中の学習サポートの実施】 ○ 長万部中学校から各小学校へ教員の派遣（長万部小2日間、静狩小3日間）	
8月	【第2回 長万部町不登校情報交換会議】 【小・中学校合同研修会の実施】 ○ 集団カウンセリング研修会の実施 【第2回 長万部町家庭学習強調週間、携帯・スマホ・ゲーム使用制限週間】 ○ 期間：8月21日（月）～9月1日（金）	

様式 1

8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発会議 ○ 北海道教育カウンセリングICT活用事業による専門家との教育相談の実施 	
9月	【「ほっと」分析・活用に関する研修会】 ○ 6月実施の子ども支援ツール「ほっと」の結果分析と指導改善に係る研修	
	【「いじめの問題について考える会」の実施】 ○ 小・中学校、高等学校の児童会・生徒会が長万部町のいじめ撲滅宣言を作成、「いじめの問題について考える会」において宣言	
	【歌声集会の開催】 ○ 児童生徒の交流を目的に実施	
	【第3回 長万部町 中1ギャップ未然防止連絡協議会】 ○ 長万部小学校授業参観日に外国語活動乗り入れ授業を公開	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域公開授業「道徳」で「自殺予防プログラム」に係る授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 静狩小学校での外国語活動乗り入れ授業を実施
11月	【第3回 長万部町不登校情報交換会議】	
	【第2回 中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】 ○ 自殺予防プログラムに係る授業実践	
	【子ども理解支援ツール「ほっと」及び「中学校生活に関するアンケート」の実施②（小学校第5・6学年、第1学年）】 【小・中学校合同研修会】 ○ 特別支援学級授業参観及び研究協議の実施	
12月	【小学校の夏季休業中の学習サポートの実施】 ○ 長万部中学校から各小学校へ教員の派遣（長万部小2日間、静狩小3日間）	
1月	【「ほっと」分析・活用に関する研修会】 ○ 11月実施の子ども支援ツール「ほっと」の結果分析と指導改善に係る研修	
2月	【第3回 長万部町家庭学習強調週間、携帯・スマホ・ゲーム使用制限週間】 ○ 期間：2月13日（火）～2月23日（金）	
	【第4回 長万部町 中1ギャップ未然防止連絡協議会】	
	【ジョイントコンサート】 ○ 小・中学校及び高等学校吹奏楽部によるコンサート	
3月	【新入生一日体験入学】 ○ 授業見学、体験授業、合同給食、部活動見学等	
	【新入生に関する小・中学校引継ぎ】 ○ 児童一人一人の学習・生活・家庭環境等に関する引継ぎ	

6 事業の成果

- 中1ギャップ問題未然防止に向けた取組を推進することで、教職員と教職員、児童と生徒、教職員と児童との交流が広がった。小・中学校の教職員に中学校での不登校を未然に防ぐための取組は、小学校に在籍している段階から始める必要があるという認識が生まれ、中1ギャップ未然防止の取組の重要性を確認することができた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用・分析したことにより、各校の集団がもつ課題が把握でき、各校の実態に応じて、課題の解決に向けた方策を実施することにより、不登校の未然防止に努めることができた。
- 長万部中学校第1学年A組では、6月実施の子ども理解支援ツール「ほっと」の結果分析から、学級全体で13要素のうち「緊張」の偏差値が低かったため、以下の3点に取り組むことにより、緊張の偏差値の増加等、学級への所属感の高まりが見られるなど学級課題の解決につなげることができた。
 - ・生徒同士が相互理解を深められるよう、道徳の時間、学級活動、学校行事等の工夫・改善
 - ・支持的風土を高める学級経営と教育相談活動の充実
 - ・教科・領域等で自分の考えを述べる際の支援・配慮事項を全職員で共通理解

【子ども理解支援ツール「ほっと」の各学校の数値の変容】

長万部中学校 第1学年A組	【緊張】偏差値	47.2 (6月)	⇒50.4 (11月)
長万部小学校 第6学年1組	【緊張】偏差値	49.3 (6月)	⇒54.7 (11月)
静狩小学校 第6学年1組	【配慮】偏差値	48.1 (6月)	⇒59.3 (11月)

- 乗り入れ授業を進めたことにより、中学校の教員が、小学校の児童、教職員にとって身近な存在となっている。また、今後に向けて、小学校教員による中学校の授業での乗り入れ授業の実施について検討が進むなど、教職員の相互交流を拡充させる動きが高まっている。

7 今後の課題

- 今後は中1ギャップ未然防止のため、自己有用感を高めるなど、より具体的な不登校未然防止のための取組を小学校段階から計画的に実施する必要がある。
- 学校関係者だけの取組とせず、スクールカウンセラー及び町の社会福祉課などの関係機関との連携を強化し、関係機関と情報共有したり、支援を要請したりするなど、中1ギャップ未然防止の取組の一層の充実を図る必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 児童生徒・教職員の交流を通じた未然防止の取組

「中学校生活に関するアンケート」の結果から、小学生は、「中学校での学習」「上級生との関係」に不安や心配を抱いている。その不安等を解消するため、乗り入れ授業、中学校の授業体験の実施や、小・中学校合同の取組を充実させることが効果的である。

★ 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した早期対応

児童生徒の様子や心の変化を教職員の観察だけでなく、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、学級集団の客観的な分析を通じた生徒指導上の諸課題の早期発見・早期対応が可能となる。

東川町立東川中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 東川町立東川中学校 (生徒数 235名)
 小学校名 東川町立東川小学校 (児童数 355名)
 東川町立東川第一小学校 (児童数 30名)
 東川町立東川第二小学校 (児童数 50名)
 東川町立東川第三小学校 (児童数 18名)

本プランの特徴

- 客観的な子ども理解による不登校の未然防止や早期発見、早期対応のために、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しています。
- 既存の東川町学力向上推進協議会の諸事業と連動して、小・中学校の連携を図っています。
- 円滑な小・中学校の接続による中学校生活への不安の解消を図るために、中学校教員による外国語活動への乗り入れ授業や詳細な引継ぎ等を行っています。

1 推進地域の特徴

東川町は、移住促進の施策により小学校区ごとに住宅団地が造成されており、豊かな自然や教育環境を求めて町外からの移住者が増加しており、道内において人口が増えている数少ない市町村のひとつである。中学校区は、町内全域であり、4つの小学校のほか、幼保一元化の施設である「幼児センター」が平成14年に設立され、町内の大半の幼児が同一施設で一定期間、教育・保育を受けている。小学校就学時は、それぞれの小学校に入学するが、中学校進学時には、幼児期の仲間と出会い学校生活を送る。

2 推進地域の課題

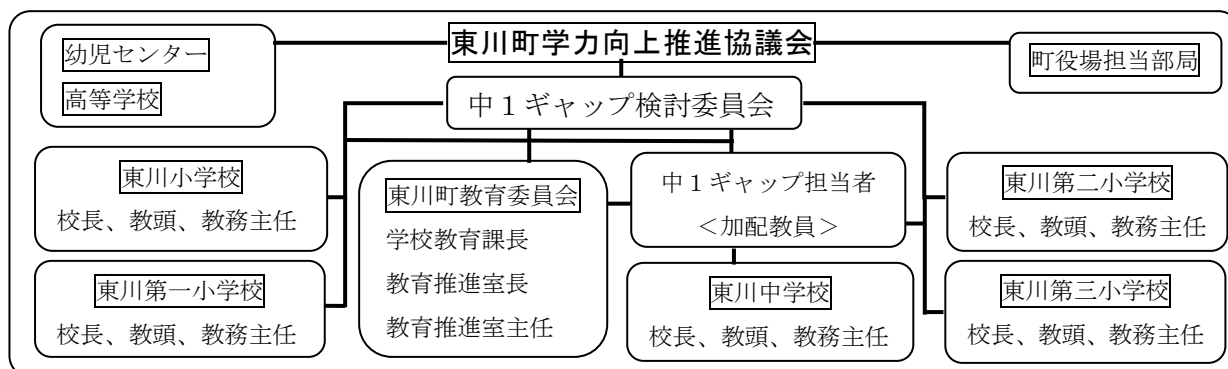
本町の児童生徒は落ち着いた学校生活を送っており、学校行事等に積極的に取り組んでいる。しかし、学年によってはコミュニケーション能力の未発達に起因すると思われる集団不適応の事例が見られたり、新入生の保護者から中学校生活への適応に関して相談が寄せられたりしている。

そのため、児童生徒の人間関係づくりの力の育成や小・中学校間の連携の促進、家庭や関係機関との情報共有など、中1ギャップの問題を解消する取組を推進するとともに、主体的に学ぶ態度やよりよい人間関係を築く力を育む指導を工夫する必要がある。

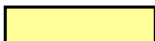
3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) コミュニケーション能力の育成など、社会的スキルを身に付けることにより、学級・学年集団に適応することができる児童生徒の育成を図る。
- (2) 他者との円滑なコミュニケーションを通じて自己存在感を高め、他者への共感的理解を深めることにより、人間関係能力の育成を図る。
- (3) 東川町学力向上推進協議会で構築した小・中学校の連携体制を充実・発展させ、生徒指導における連携の一層の充実を図る。

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際



～小中連携の取組

○～学校の取組 ■～児童会・生徒会の取組

時 期	東川中学校	各小学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に係る状況把握 ・ 学習状況、生活状況、交友関係等の把握 ・ 入学後の配慮事項の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校への引継ぎ ○ 特別な支援を必要とする児童に関する情報提供と個別の教育支援計画「すくらむ」による引継ぎ
4月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【小・中学校共通の学習規律の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「東川っ子学びの10か条」に基づく全ての小・中学校における指導 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生に係る配慮事項の共有 ・ 生徒指導事例研修会の実施 ■ 日常的な「あいさつ運動」の取組<通年> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常的な「あいさつ運動」の取組 (全小学校) ■ 「悩み相談箱」の設置<通年> (東川小) ■ 「がんばり集め」、「やさしさ集め」(よい行いや親切な行為を見付けて賞賛する)の取組<通年> (第一小) ■ 「ふわふわ集会」(肯定的な言葉について考える集会)の実施 (第二小) ■ 「ありがとうの木」(互いの親切な行為を見付ける)の取組<通年> (第三小)
5月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【第1回東川町学力向上推進協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校での望ましい人間関係を築く取組状況の共有 ○ 小・中学校の連携に係る取組の検討 ○ 事業内容の協議及び組織の確認 ○ 事業推進年間計画の作成 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【第1回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続校による実践発表 ○ 指定校間の交流・協議 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会への取組を通じた他者理解、協力性及び学級への帰属意識の醸成 ○ いじめアンケートの実施 ○ 教育相談の実施 ・ 教育相談アンケートやいじめアンケートの結果に基づく相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会への取組を通じた役割の自覚、責任感及び協力性の醸成 ○ いじめアンケートの実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導事例研修 ・ 配慮を要する生徒の状況の共有と適切な支援の在り方についての研修 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と結果分析、校内での課題の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と結果分析、校内での課題の共有
8月		

様式 1

9月	○ 学校祭への取組を通じた他者理解、協力性及び学級への帰属意識の醸成	
10月	○ 出身小学校の学芸会・学習発表会の運営補助及びステージ出演	○ 学芸会・学習発表会への取組を通じた役割の自覚、責任感及び協力性の醸成 ■ 「東小カーニバル」の取組（東川小）
11月	○ 生徒指導事例研修 ・配慮を要する生徒の状況の共有と適切な支援の在り方についての研修 ○ 教育相談の実施	○ 「幼児・児童・生徒音楽の集い」の実施 ・中学校第2学年の学年合唱の鑑賞を通じた中学校における活動への意欲の醸成
【第2回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会】 ○ 小・中学生の学習状況の確認（授業参観） ○ 不登校児童生徒の状況を中心とした各校の児童生徒の実態交流 ○ 事業進捗状況の確認、効果の検証 ○ 今後の事業予定の確認と事業推進上の課題に関する協議		
12月	■ 「思いやり集会」の実施	○ 中学校外国語担当教諭による第6学年外国語活動への乗り入れ授業の実施（東川小） ■ 全校集会「クリスマスコンサート」の実施（第一小）
1月	【第2回東川町学力向上推進協議会】 ○ 各学校での望ましい人間関係を築く取組状況の共有 ○ 小・中学校の連携に係る次年度の取組の検討	
【東川町中学校区の中1ギャップ問題未然防止学習会】 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した引継ぎについての確認 ○ 児童生徒の実態交流及び対応の在り方に関する協議		
2月	○ 東川中学校新入生説明会の開催 ・入学予定者とその保護者を対象とした授業見学、中学校生活についての説明及び部活動見学	○ 中学校外国語担当教員による第6学年外国語活動への乗り入れ授業の実施（第一小・第二小・第三小）
3月	【小・中学校合同のボランティア活動の実施】	
【東川町中学校区の中1ギャップ問題未然防止事業の反省】 ○ 各学校における取組の反省 ○ 児童生徒の実態交流及び対応の在り方に関する協議		
【小・中学校共通の学習規律の取組の総括】 ○ 「東川っ子学びの10か条」に基づく各小・中学校における指導の成果と課題の確認及び今後の取組の方向性に関する協議		

6 事業の成果

- 制定4年目となる「東川っ子学びの10か条」を基に、各小・中学校が9年間を見通して子どもを育てるという認識に立ち、学力向上及び生徒指導の充実に向け、指導方法や指導内容の改善を進めることができた。
- 各小・中学校において、児童会や生徒会が主体となった人間関係づくりの力の育成を図る取組を充実させたことにより、児童生徒同士の良好な人間関係を構築することができた。
- 各小・中学校で子ども理解支援ツール「ほっと」を実施して結果を分析したことにより、自校での教育相談や学校教育活動において、児童生徒に寄り添った指導の充実に図られた。

特に、7月に小規模小学校と中学校ともに平均値が低かった「参加」と「緊張」の要素においては、12月に、数値が3ポイント以上向上した。この数値の向上の要因としては、環境への変化を取り除くための教育相談の実施や、自己有用感を高める教育活動の工夫、変化に対応できるような指導、互いに認め合える場の設定、一人で抱え込まずに気軽に相談できる体制づくりなどに努めたことが考えられる。

- 本事業に関わる諸会議や外国語活動への乗り入れ授業等を通して、小学校教員と中学校教員が互いの学校における教育活動の状況について、相互理解を深めることができた。

7 今後の課題

- 義務教育9年間で身に付けさせたい力を明確にし、児童が中学校に進学した後も抵抗感なく学習に移行できるよう取組を進める必要がある。
- 児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図るため、学校と家庭・地域住民が情報提供や話し合いの場を設定して、日常的な交流を図る必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 小・中学校間の緊密な連携体制の確立

「中1ギャップや不登校の未然防止」には、小・中学校間の緊密な連携が不可欠である。そのため、学習や生活に関する実態把握を行い、課題を明確にした上で、中学校での指導や対応を検討するとともに、日常的に情報交換の場をもつ必要がある。

★ 教師の日常的な観察や子ども支援ツール「ほっと」を活用した分析

「中1ギャップや不登校の未然防止」には、教師の日常的な観察や子ども理解支援ツール「ほっと」を活用した分析など、様々な方法できめ細かく児童生徒の心の変化をとらえ、適切な指導に結び付けることが有効である。

★ 不登校の防止に向けた、小・中学校の継続的な情報交換

「不登校の早期発見・早期対応」には、中学校入学前から小・中学校で情報交換の場を設定するとともに、入学後も継続して実施するなど、一人一人の状況に応じてきめ細かく対応する必要がある。

東川っ子学びの10か条

- 【家庭で】
 - 家族と言葉のキャッチボールをします
 - 早寝・早起き・朝ごはん
 - 毎日、忘れずに家庭学習をします
 - 規則正しい生活をします
- 【学校で】
 - 生活のきまり・学習ルールを守ります
 - 授業中は集中して学習します
 - わかったこと・できたことを
 - 次のステップに活かします
 - いつでもどこでも
 - 仲間と協力し、仲間のよさを認めます
 - 読書で考える世界を広げます
 - 優しい心と強い体をめざします
- 【東川っ子として】
 - 東川を学び、地域の活動に参画します

13要素	小規模校平均		東川中1年	
	7月	12月	7月	12月
参加	49.7	53.3	48.6	55.7
緊張	49.2	52.5	48.5	56.3

天塩町立天塩中学校区における中 1 ギャップ解消プラン

中学校名 天塩町立天塩中学校（生徒数 80 名）
 小学校名 天塩町立天塩小学校（児童数 132 名）
 天塩町立啓徳小学校（児童数 15 名）

本プランの特徴

- 「そろえる」をテーマとした「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導について3校で足並みをそろえることで、中学校入学時の不適應を防止する取組を行っています。
- 小・中学校の円滑な接続及び入学前後の学習意欲の向上を目指し、「乗り入れ授業」や「部活動体験」を、年間を通して計画的に行っています。
- 小・中学校間における児童生徒の実態や指導内容等の共有に向け、スクールカウンセラーや福祉課等の関係機関と連携したサポート会議、連携協議会、合同研修会を行っています。

1 推進地域の特徴

天塩町は留萌管内の最北に位置し、市街地とその他の酪農を中心とした農業地域からなり、東西南北それぞれに25km程度の広大な面積をもつ地域である。中学校区には2つの小学校があり、市街地から離れた地域の生徒はバスで登校をしており、遠方の生徒の登校時間は片道50分を要する。

地域住民や保護者の教育的な関心は高く、学校教育に対して協力的である。また、各種少年団活動や子供会活動等の児童生徒健全育成活動も活発である。

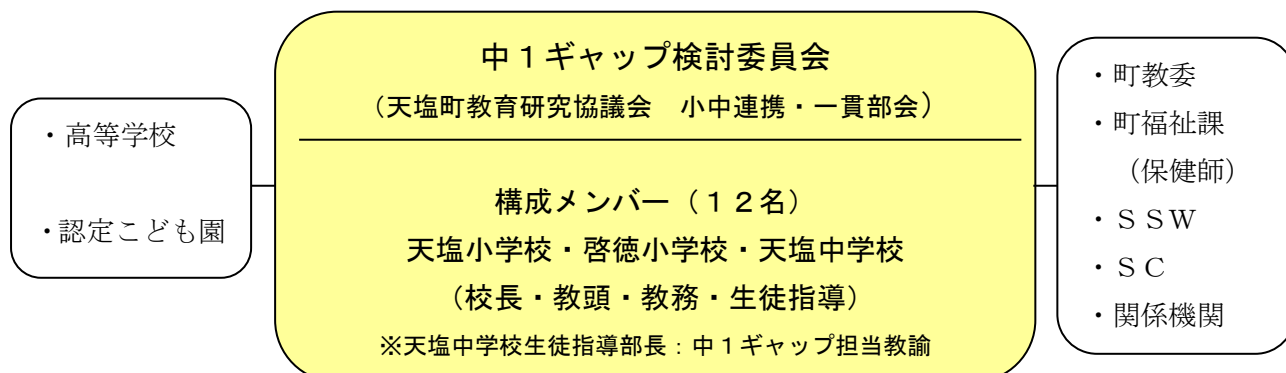
2 推進地域の課題

平成28年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、テレビやゲーム等に費やす時間が全国や全道の平均と比較して長く、平日や休日の家庭学習の時間が短いなど生活習慣に課題が見られた。また、中学校ではここ数年、各学年に不登校生徒が数名いる状況が続いていた。不登校生徒のいずれにおいても小学校では通常どおり登校していたことから、中学校入学後の学習環境の変化に適應できていないことが原因の一つとして考えられる。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校間での学習規律・生活規律の改善に関する一貫した取組を推進し、中学校入学時の不適應を防止する。
- 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等、小・中学校が連携した取組を推進し、指導方法・指導体制を充実して児童生徒の学習意欲を高める。
- スクールカウンセラー等の関係機関と連携したサポート会議、連携協議会等を開催し、課題を抱える児童生徒へ、きめ細かく丁寧に対応し、不登校生徒の解消を目指す。

4 中 1 ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

～小中連携の取組

時 期	天塩町立天塩中学校（推進校 1）	天塩町立天塩小学校（推進校 2） 天塩町立啓徳小学校（推進校 3）
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に関する引継ぎ ・ 学習、生活、交友関係、特別支援 ○ 中学校校区小中連携組織の設置 (小中連携・一貫部会) ○ 不登校等対策委員会の開催（通年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に関する引継ぎ ・ 学習、生活、交友関係、特別支援 ○ 中学校校区小中連携組織の設置 (小中連携・一貫部会)
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の実施と分析① ○ 新体力テストの実施と分析① 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の実施と分析① ○ 新体力テストの実施と分析
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ サポート会議の開催（毎月） 	
<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携・一貫部会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間推進計画 ○ 学力・体力の向上に係る交流 <p>※「小中連携・一貫部会」全体会の開催</p>		
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期末学校評価の実施と分析 ○ 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析 ○ 道徳性に関するアンケートの実施と分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期末学校評価の実施と分析 ○ 「児童アンケート」の実施と分析 ○ 道徳性に関するアンケートの実施と分析
<p>【学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続に関する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律・生活規律の改善に関する一貫した取組 ○ 家庭学習における内容や方法についての連携 ○ 学年相互の関連を明確にし、小・中学校9年間を見通した指導の推進 <p>※「小中連携・一貫部会」教育課程グループと児童生徒育成グループでの推進</p>		
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業の実施（2月まで継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業の実施（2月まで継続）
9 月	<p>【天塩町PTA研究大会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムや家庭での過ごし方（家庭学習時間、ゲーム・テレビ等の視聴、携帯電話・スマートフォン等の利用）等に関する家庭との連携の充実 	

様式 1

<p>10月</p>	<p>○ 「ほっと」の実施と分析②</p>	<p>○ 「ほっと」の実施と分析②</p> <p>【学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続に関する取組】 ○ 全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた授業改善の方策を検討 ※天塩町教育研究協議会～国語部会、算数・数学会及び児童生徒育成グループによる分析</p>
<p>11月</p>	<p>【人間関係づくりの能力の育成を図る小・中学校の円滑な接続】 ○ 町内の児童生徒が集まり「天塩町子ども会議」の実施</p>	
<p>12月</p>	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携・一貫部会）】※第2回運営協議会 ○ 「ほっと」の分析結果の交流 ○ 事業の進捗状況についての協議</p> <p>○ 生徒会主催による「天中いじめ根絶サミット」の開催 ○ 2学期末学校評価の実施と分析 ○ 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析</p> <p>○ 2学期末学校評価の実施と分析 ○ 「児童アンケート」の実施と分析</p>	
<p>1月 2月</p>	<p>○ 新体力テストの実施と分析②</p>	<p>【小・中学校合同研修会の実施】※天塩町教育研究協議会研究発表大会 ○ 小中連携・一貫部会の発表（成果と課題）</p> <p>【中1ギャップ解消を目指した新入生説明会及び体験入学】 ○ 中学校の体験授業の実施（2教科）</p> <p>【小学校6年生を対象にした部活動体験の実施】 ○ 野球部 ○ 卓球部 ○ バレーボール部 ○ 吹奏楽部 ※週休日を中心に、数回実施</p>
<p>3月</p>	<p>【中1ギャップ検討委員会（小中連携・一貫部会）】 ○ 今年度の成果と反省 ○ 次年度計画の立案</p>	

6 事業の成果

- 「そろえる」をテーマとした「学習規律」「生活規律」の統一及び系統的な指導によって町内3校の足並みをそろえ、中学校入学時の不応適を防止する取組を行った結果、学校評価における生徒アンケートで「学校生活や授業規律のきまりについて小学校との共通点が多い」と回答した生徒の割合が昨年と比較して2ポイント上昇し、「毎日の学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合が1ポイント上昇した。更に、ここ数年、各学年に不登校生徒が数名いる状況が続いていたが、本年度の第1学年では不登校生徒が出ていない。
- 各小・中学校で「子ども理解支援ツール『ほっと』」を実施し、分析結果を3校で交流した。小学校で実施した昨年度の結果と今年度の第1学年の結果（11月実施）を比較すると、「仲間づくり」の項目が向上しており、学級指導等の成果が確認できた。なお、「ほっと」の集約・分析については、加配教員（生徒指導部）が推進役として役割を果たした。
- 中学校教員による小学校第6学年への「乗り入れ授業」と校区の小学校2校の児童を迎えて「部活動体験」を実施することによって、中学校での学習に対する関心を高めるとともに、早い時期から中学校進学へ希望や目標をもたせることができた。
- 加配教員が推進役となり、スクールカウンセラーや町福祉課等の関係機関と連携したサポート会議等を計画的に実施したことにより、各学校が抱える不登校等の課題や取組の状況を交流するとともに、不登校生徒やその保護者に対する効果的な支援について協議することができた。

7 今後の課題

- 小学校教員による中学校第1学年への「乗り入れ授業」の実施や、小学校第6学年が定期的に中学校に登校して授業を行う「中学校登校」を実施するなど、中1ギャップ解消の効果が期待できる取組を更に充実する必要がある。
- 保護者や地域住民と連携・協力した取組を推進するため、小小連携・小中連携の取組や関係機関等と連携を図った取組の情報をより一層発信する必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ 円滑な接続を図るための課題の明確化と指導内容の焦点化

中学校進学後の生徒のストレスを最小限に抑えるためには、不登校の要因となる課題を明確にし、未然防止のための指導内容を焦点化することが大切である。本町では、学習規律や生活のきまり等の指導内容において、小・中学校間に差が見られたことから、中学校第1学年の指導内容を小学校第6学年から意識して指導することで円滑な接続を図ることとした。

★ 児童生徒理解の充実と関係機関と連携したサポート体制の強化

「子ども理解支援ツール『ほっと』」を効果的に活用したり、各種アンケートや教育相談を通して児童生徒一人一人の状況をきめ細かく把握したりすることが大切である。

また、家庭環境等で様々な課題を抱えている児童生徒も見られることから、小・中学校間で情報を共有し、スクールカウンセラー等と連携したサポート体制を強化することが大切である。

標茶町立標茶中学校区における中1ギャップ解消プラン

中学校名 標茶町立標茶中学校（生徒数 176 名）
 小学校名 標茶町立標茶小学校（児童数 292 名）
 標茶町立磯分内小学校（児童数 25 名）
 標茶町立沼幌小学校（児童数 16 名）

本プランの特徴

- 各学校の特別活動（学校行事）、総合的な学習の時間の指導内容を交流し、新たな体験、経験や系統的な学びができるよう工夫しながら指導計画を作成、運用しています。
- 各種調査や検査を活用し、その結果を分析しながら一人一人の理解を深め、指導の場面に生かしています。
- 不登校未然防止及び小・中学校の円滑な接続や新入生の不安を取り除くため、「新入生体験入学」「出前授業」「地域公開参観日」を実施しています。

1 推進地域の特徴

標茶町は2つの国立公園を有する広大な面積を有し、酪農を基幹産業とする町である。平成 29 年 12 月現在、世帯数 3,673、人口は 7,721 人である。

当該校がある市街地は、社会教育が盛んで地域活動も町内会を中心に運営され、PTA 活動も地域との連携が図られており、保護者の教育への関心は高い。子どもたちの生活環境は自然に恵まれており、体育館、公園、図書館等社会教育施設も充実している。

2 推進地域の課題

中学生は、日常の授業等を通して、互いの考えを尊重し合い共感的な関わりができるようになり、昨年度の「ほっと」の結果からも友達との関係をうまく築くことができるようになってきていることが明らかとなった。反面、学習面において主体的に学ぶ意識が弱い生徒が見られる。

小学生は、指示されたことについては真面目に取り組むが、主体的に学ぶ意欲や態度、自分で決めたことに対して、やり遂げようという粘り強さに課題がある。

これらのことから、小・中学校が目指す子どもの姿について共通理解を図り、発達の段階に応じて系統的に指導できるよう小・中学校の連携を強化する必要がある。

3 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

「いじめゼロ、不登校ゼロを目指して！」

～良好な人間関係を築き、誰もが安心して生活できる学校づくり～

- 人間関係づくりの能力の育成を図る小・中学校の円滑な接続
- 児童生徒の心に寄り添うカウンセリングの充実
- 学習指導や生徒指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善
- よりよい人間関係の構築を図る中学校区内小学校間の連携

4 中1ギャップ検討委員会の組織



5 中1ギャップ解消プランの実際

□～小中連携の取組 ○～学校の取組 ■～児童会・生徒会の取組

時 期	標茶町立標茶中学校	標茶町立標茶小学校 標茶町立磯分内小学校 標茶町立沼幌小学校
3月	【新入生徒に関する引継ぎ】 <input type="checkbox"/> 学習、生活、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画を活用した特別な支援を必要とする生徒についての確認	
4月	<input type="checkbox"/> 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について（シミュレーション） <input type="checkbox"/> 春の教育相談週間 <input checked="" type="checkbox"/> あいさつ運動（通年）	<input type="checkbox"/> 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について（シミュレーション） <input type="checkbox"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施
5月	【中1ギャップ未然防止事業の共通理解】 <input type="checkbox"/> 事業の目的及び重点目標等の確認 <input type="checkbox"/> 小中連携の方向性についての確認	
5月	<input type="checkbox"/> 生徒指導研修 ・事例研究 ・生徒指導の3つの機能を生かした授業 <input type="checkbox"/> いじめアンケートの実施 <input type="checkbox"/> Q-Uの実施 <input type="checkbox"/> 「担任への手紙」①	<input type="checkbox"/> いじめアンケートの実施 <input type="checkbox"/> いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 「ありがとうボックス」の取組（よりよい人間関係づくり）
6月	<input type="checkbox"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒会企画「Let's Talking」（異学年交流）の実施	
7月	<input type="checkbox"/> いじめアンケート及び「Q-U」の結果を活用した個別の教育相談の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 体育祭（A団・B団による練習～異学年交流）	【第1回小中連携委員会の開催】 <input type="checkbox"/> 事業内容等の確認 <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態交流 <input type="checkbox"/> 小中連携の内容に係る意見交換
8月	<input type="checkbox"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 <input checked="" type="checkbox"/> いじめ根絶標語づくり <input type="checkbox"/> 秋の教育相談週間（～9月）	<input type="checkbox"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 <input type="checkbox"/> 言葉遣いの指導 <input checked="" type="checkbox"/> いじめ根絶標語づくり（第4～6学年）
9月	<input type="checkbox"/> 「ほっと」の教職員共通理解	<input checked="" type="checkbox"/> 縦割り地区遊び（異学年交流）
10月	【小中連携委員会教務部会】 <input type="checkbox"/> 小・中学校の学習規律の比較及び共通した取組の検討	
10月		<input checked="" type="checkbox"/> 縦割り地区遊び（異学年交流） <input checked="" type="checkbox"/> どさんこ☆子ども地区会議への参加 ・児童会書記局が、いじめ問題について交流・協議

様式 1

<p>11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施 ○ 「担任への手紙」② ○ Q-Uの実施 ○ いじめアンケート及び「Q-U」の結果を活用した個別の教育相談の実施 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【小中連携委員会生徒指導部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会・生徒会の取組の交流 ○ 年度末の引継ぎの在り方の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【標茶中学校新入生体験入学及び保護者説明会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校生活等についての説明（生徒会書記局） ○ 部活動及び同好会活動の紹介（各部長） ○ 体験授業（数学科、理科、外国語科） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 ○ いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 ■ 縦割り地区遊び(異学年交流) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【校区内小学校の連携の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校体験入学の前に3校の第6学年が交流会を実施 </div>
<p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【小中連携委員会研修部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校で共通した授業スタイルの検討 ○ 各教科の授業実践交流の企画 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【授業実践交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科、算数・数学科、理科、社会科、外国語活動・外国語科 ○ 研修部会による交流内容の情報発信 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【標茶町いじめ根絶子ども会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 町内小・中学校の代表児童生徒による1学校1運動の取組発表及び交流 ■ いじめ根絶の取組に係る意見交換 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 縦割り地区遊び(異学年交流)
<p>1月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【小学校の学習会へ教員派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第6学年を対象とした学習会に参加し学習支援を実施 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【小学校の授業参観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律や学習過程の確認 ○ 児童の実態把握 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ありがとうボックス」の取組の学級紹介 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【冬休み学習会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに学習会を実施 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【授業参観日】</p> </div>
<p>2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「担任への手紙」③ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【授業参観日】</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【中学校の授業参観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律や学習過程の確認 ○ 生徒の実態把握 </div>
<p>3月</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">【第2回小中連携委員会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の取組の成果と課題の交流 ○ 次年度の取組の方向性の確認 </div>	

6 事業の成果

- 2学期開始直後に加配教員が第1学年の生徒に学校生活について、自由記述によるアンケート調査を行ったところ、「中学校生活は楽しいですか」「学校行事についてどう思いますか」「中学校の先生方の指導はどうですか」の質問に対して肯定的な回答が多く見られた。

第1学年へのアンケート

平成 29 年 8 月 21 日実施

設 問		29 年度	28 年度
中学校生活は楽しいですか。	肯定的 (%)	93	61
	否定的 (%)	7	39
学校行事についてどう思いますか。	肯定的 (%)	93	71
	否定的 (%)	7	29
中学校の先生方の指導はどうですか。	肯定的 (%)	98	84
	否定的 (%)	2	16

- 第1学年を対象とした「体育祭」「文化祭」に係るアンケート結果から、生徒が自ら創意工夫をしながら主体的に活動することや仲間と協働することで大きな行事を成し遂げていくことに充実感や達成感、所属感などを味わい、学校生活の中でより主体的・協働的に活動ができるようになってきている様子が見られた。

7 今後の課題

- 担当者間の情報交換は定期的に行われるようになっているものの、全ての教職員が関わり合って児童生徒の育成に向かう取組が十分でないことから、4校の教職員が合同で行う取組を企画・実施する必要がある。
- 教育課程全体の中で、4校が目指す子ども像を共有し、9年間を見通した取組を行う必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本推進地域からの提言 ◇◇◇

★ **未然防止・・・キーワード「理解」**
 児童生徒の実態や各学校における特別活動や総合的な学習の時間の内容について把握し、授業交流、出前授業、サポート学習の協力、体験入学などの活動を関連付けて行うことで、児童生徒の不安解消と興味・関心や自己有用感を高めるようにしていく。

★ **早期発見・・・キーワード「観察と相談」**
 全教職員が、普段から児童生徒とのコミュニケーションを積極的にとりながら、小さな変化を見落とさないようにしている。また、定期的な教育相談を実施し、児童生徒の内面を知る機会を設けている。そこで得た情報を小学校間の連携・小中連携のポイントとして共有し、各種活動時の指導に役立てていくようにしていく。

★ **早期対応・・・キーワード「チームとしての学校（対応）」**
 日常の児童生徒の様子や、「ほっと」「Q-U」等の各種調査結果を共有することで、統一された対応がされるようにしている。また、教職員だけではなく、スクールカウンセラーや保護者、各関係機関と連携をとりながら対応をとることで、早期対応に努めることができるようにしていく。